

平成28年度総合的な教師力向上のための調査研究事業

新たな教育課題に対するための科目を教職課程に位置づけるための調査研究

学校インターンシップの実施による 実践的指導力の向上を目指す調査 研究実績報告書

国立大学法人 愛知教育大学

教職キャリアセンター・体験学習支援部門

目 次

1. はじめに	1
2. 学校ボランティア活動に関わる先進校訪問調査報告	
○国立大学法人富山大学	2
○国立大学法人東京学芸大学	3
3. 調査報告	5
4. おわりに	9
資料1 学校サポート活動Ⅰ受け入れ状況	11
資料2 「学校サポート活動Ⅰ」	13
資料3 「学校サポート活動Ⅰ」希望票	15
資料4 「学校サポート活動Ⅰ」申込書	16
資料5 「学校サポート活動Ⅰ」における留意事項	17
資料6 参加学生数一覧	18
資料7 参加学生のようす	20
資料8 参加学生からのアンケート結果	21
資料9 不参加学生からのアンケート結果	32
資料10 教育委員会（部局等）からのアンケート結果	34
資料11 学校等サポート活動先からのアンケート結果	39

1. はじめに

本学では第3学年秋に実施する教育実習において、近年、十分な成果を出せず教員志望をあきらめてしまう学生が増えつつあることの課題を認識していた。

この課題に対応するためにも、教育実習前までに、学生が、実際の教育現場で、子どもとふれあう機会を設定し、子どもとふれあうことへの抵抗感をなくし、スムーズに教育実習に入ることができる方策を検討した結果、「学校インターンシップ」として平成28年度から2年次に選択で開設する「学校サポート活動」について教育課程上必修にすることが望ましいと考えた。

一方、学校現場は、発達障害をもった子どもや外国人児童生徒への対応等のため、ボランティアで教育活動に関わってくれる学生を求めている。

本学では、平成28年度に「学校サポート活動」を開講する準備として、平成27年度の後半で、特任教員（愛知県内校長退職者）が、愛知県内の50あまりの市町村教育委員会を訪れ、事業の趣旨を説明し、受け入れ先の確保に努めた。

また、平成26年度に設置した「愛知教育大学教員養成の質向上に関する諮問会議」等で、県内教育関係者の代表にも理解をもとめた。

併せて平成27年度1年生に対し2月に説明会を実施した。参加の意思確認の調査を実施し、教員養成課程の半数以上は参加を見込むことができた。

以上のことを踏まえ、「学校インターンシップの実施による実践的指導力の向上を目指す調査研究事業」として、本学の教員を志望する第2学年の学生を対象に、愛知県内を中心とした幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校及び教育施設等でサポート活動（学校サポート活動）をする機会を設定し、週1度（3時間程度）子どもとふれあうことで、子ども理解や教育活動理解を深め実践的指導力の向上を目指すと共に、教職への意欲がどのように高まるか、どのような活動が効果があるかを調査し、必修化に向けて本科目の意義を検証した上で本学の教員養成カリキュラムの体系化を目指すものである。

2. 学校ボランティア活動に関わる先進校訪問調査報告

○国立大学法人富山大学

文責：中島 浩（教務課）

- 1 訪問日時：平成 28 年 7 月 14 日（木）10：00 ～ 12：00
- 2 訪問先：国立大学法人富山大学人間発達科学部
- 3 対応者：「学びのアシスト」 笹田茂樹准教授、増田美奈講師
「スタディ・メイトジュニア」和田充紀講師
- 4 訪問者：愛知教育大学 野田敦敬副学長（カリキュラム改革担当）
中島 浩（教務課教育実習担当係長）

「学びのアシスト」について

（趣旨）

県教育委員会、市町村教育委員会、富山大学人間発達科学部の連携・協力の下、放課後等における個別指導や学習相談をはじめとしたきめ細かな指導を一層充実させ、児童の学習意欲の向上や学習のつまづきの解消を図るとともに、教員志望の大学生の資質・能力の向上を図っている。

（活動内容）

学級担任として学級経営をどのように進めて行くかを理解することを重視したコース

- ・単位 2 単位
- ・8 コマの授業の実施 教育学の先生、特別支援の先生が担当
- ・1 年次に教員志望学生を県内の小学校に派遣する
- ・募集 70 名 参加 H28 年度 52 名
- ・実習先 富山県出身者は母校、担任だった先生の学校、尊敬している先生の学校
母校への実習が多い。
原則各学校に 1 名の実習生としている。
複数名依頼がある学校もある。
- ・実習記録 教育実習用の用紙を使用 1 日 A4 1 枚程度記入
- ・実習時間 1 日 上限 8 時間、17 時頃までの実習としている。

（連絡方法）

- ・実習生が連絡する。最初に教頭先生に連絡することになっている。（マニュアル有）
- ・教育委員会には、富山大学学生から依頼があることは報告済み。

（中間報告会）

- ・実習記録の確認
- ・グループワークを行う。1 グループ 5～6 人 グループは固定
- ・実習生同士が、実習中で困っていることなどを相談する。

（成果）

- ・活動参加者の 9 割が教員採用試験に合格しているので成果は出ている。

（辞退者）

- ・オリエンテーションで内容の厳しさを伝えるため、オリエンテーション時で人数が減るため、途中辞退者はほとんどいない。

「スタディ・メイトジュニア」 について

(趣旨)

子どもの視点に立った支援とはどのようなものを理解することを重視したコースで、発達障害生徒のサポート等を行う。

- ・募集 20名 参加 H28年度 16名
- ・単位 2単位

(活動実習校)

毎年同じ学校にならないように県教委が配慮していただいている。

実習生の2/3は特別支援学級 1/3は普通学級で活動を行っている。

(講義)

予備知識として2回講義を実施

(担当)

学生4名で構成するグループを教員4名で担当する。

実習中 実習に行った時に必ずメールで指導教員に報告し、相談を受け付ける。

(中間報告会)

「スタディ・メイトジュニア」参加学生のみで実施

(成績)

レポート内容で評価 実習内容をA4(1枚)を記入させ提出させる。

5. 調査を終えて

富山大学が実施している教師力向上のための事業の説明を受け、教育委員会との連携を密に行うとともに、学生へのガイダンス等による意識付けを行うことが、教員志望の学生の資質・能力向上につながることを理解できた。

○国立大学法人東京学芸大学

文責：加納誠司（生活科教育講座）

- 1 訪問日時：平成28年8月1日（月） 9：30～10：30
- 2 訪問先：国立大学法人 東京学芸大学
- 3 対応者：（東京学芸大学 学務部キャリア支援課）
佐藤 守 課長、 石森徹也 副課長、 新井慶子 係長
- 4 訪問者：（愛知教育大学 教職キャリアセンター体験学習支援部門）
加納誠司 部門長、 玉田 弘 特任教員
- 5 先進校視察から明らかになったこと

（1）学校ボランティア活動の位置付け

東京学芸大学では学校ボランティア活動における取り組みを「学校支援教育ボランティア」という名称で位置づけられていた。基本的には、教育委員会が募集する学校におけるボランティアのうち、大学に登録カードを提出して参加するものを指している。教員を目指す学生にとって教育現場での様々な体験を通して、子ども理解に努め、教職の仕事を理解するいい機会となっているようである。

（2）活動先が決定するまでの流れ

まずは年度当初にボランティアを募集する各自治体の教育委員会担当者の説明会を開く。平成28年度は10の教育委員会からボランティア養成の依頼があったとのこと。その説明会に参加して興味を示した学生は、「学校支援教育ボランティア登録カード」に記入しキャリア支援課に提出する。次にキャリア支援課から当該学生が希望する自治体に情報を提

供するとともに、学生自らが独自に希望する自治体に応募し、受け入れが決まってからキャリア支援課に「決定届」を提出する。活動終了時には「学校支援教育ボランティア報告書」を提出する。

（３）単位認定や教員のかかわりについて

特に教員がかかわることもなく、単位認定はしていないとのこと。これについては、本学の「学校サポート活動」と大きく異なる点である。

（４）その他の取り組みについて

各学校単位での個別の募集案内、外部団体からの障がい者支援、海外交流等のボランティア活動の周知については掲示で知らせ希望する学生に個別に対応しているとのこと。震災関係等で他機関との連携大学として実施する場合は、その都度説明会を開き、募集、とりまとめ、派遣先、交通費等の補助金が出る場合はその支給手続きの方法などを説明するとのこと。

それ以外にも、関東地区の教員養成大学としての自負や存在意義、私大とは異なった特色を出すこと、さらには教員採用試験への受験率など、本学が抱える課題と共通していることが明らかとなった。お互いに情報交換することで国立の教員養成大学としての在り方を共有できた。

3. 調査報告

これまでも、学生は様々な形で教育支援のボランティアに取り組んできていたが、それはあくまでも学生の自主的な活動の範囲であった。そのため学生の時間割に空きがでやすい4年生の活動が多く、また授業の合間を縫って出かけるため、活動場所も大学の近隣が多かった。一部には土曜や日曜の休日、夕方からの「放課後子ども教室」等に参加している学生もいたが、その数は限られたものであった。

今回の「学校サポート活動Ⅰ」が目指すのは、最終的には700名規模の学生全員が参加するところにあるため、活動場所、言い換えれば受け入れ先の確保が大きな課題となった。また、活動の時間帯も水曜日午前中を基本としたため、朝から活動場所の学校等に行くことが可能となるよう、居住地近隣を受け入れ先とする必要があった。この2点から受け入れ先は愛知県内全域及び愛知県に近い岐阜、三重、静岡の一部地域という広域で考えることになった。

(1) 準備段階（平成27年5月～11月）

愛知県内50余の市町村で学生を受け入れてもらうにあたり、市町村教育委員会をはじめ教育関係機関、子ども対象事業を行っている自治体各部署を訪問し、「学校サポート活動Ⅰ」の事業説明を行うとともに各市町村で行われているサポート活動や学校支援ボランティアに類する事業の調査を行った。主催の事業が行われている市町村には、その事業に参加する形での受け入れを、事業が行われていない市町村には、個別の受け入れをお願いした。その結果、すべての市町村で受け入れていただけることになり、今回の取り組みが大きく動き出した。その受け入れ状況を一覧にまとめたものが（資料1）である。市町村事業が行われている自治体と行われていない自治体の数はほぼ半数ずつであった。

(2) 1年生を対象とした事業説明会（平成28年2月4日）

「学校サポート活動Ⅰ」に参加を希望する1年生を対象にして説明会を行った。受け入れ状況一覧表（資料1）と「学校サポート活動Ⅰ」（資料2）をもとに概略を説明した。その後、2月に希望票（資料3）を取りまとめ、受け入れ先との人数調整を図ったうえで、あらためて4月に申込書（資料4）を提出させることとした。これは、初めての試みということもあり、どこにどのくらいの数の希望が出るかが読めないという事情があったからである。ところが、学生の希望票の提出が遅れ気味になったことや、提出期限後も参加希望の学生が出てきたりして、希望票の提出が申込書の提出と時期的に重なり合うという状況になり、受け入れ先との調整が行えない状況が長く続き大きな課題が残った。

(3) 受け入れ先との調整（4月から5月）

次善の策として申込書を優先して市町村別名簿を作り、4月から5月に受け入れ先との調整を図った。一部の受け入れ先で人数が多すぎるということで差し戻しがあったりして何度も調整を繰り返した。

(4) 事前指導（4月25日・予備26日、5月18日・予備25日、予備6月7日）

5月から活動が始まる名古屋市の事業に参加する学生を中心に、開始時期の早い学生に対して事前指導を4月に行った。続いて9月以降に活動が始まる学生向けに5月18日に4月と同じ内容で事前指導を行った。欠席者には予備日に行った。

ここでは、「学校サポート活動Ⅰ」における留意事項（資料5）を使って、活動するにあたって注意すべき点を丁寧に説明した。この部分を学生の心にどこまで落とし込むことができるかが大変重要であると考えている。

（5） 市町村別事前指導（6月から7月）、受け入れ先との面談（6月から8月）

受け入れ先との調整の結果、参加学生の名簿が受け入れ先ごとに決まっていた。それを受けて、参加先の市町村別に学生を集め、参加の仕方、受け入れ先との連絡の方法、市町村ごとの注意事項、（4）での事前指導で行った大事な点の押え等について指導した。市町村教育委員会主催の事業に参加する場合は、その事業要項に則っての参加となるため、それに応じた募集要項、申込書等も用意して指導を行った。市町村によっては、事前面談を教育委員会が日を決めて行うところや、教育委員会の面談はなく、直接学校へ行って面談をするというところなど、細部で市町村によって異なるため、この市町村別の事前指導は必要なものである。また、訪問・面談に臨むにあたって常識的な電話連絡での言葉づかい、スーツ着用などについてもここで押さえた。

学生は受け入れ先に連絡を入れ、面談に臨み、9月からの活動内容、活動日程等が決まっていた。

（6） 「学校サポート活動Ⅰ」の実施（5月から）

早い学生で5月から、多くの学生は9月から受け入れ先での活動が始まった。活動途中にやめた学生もいたため、最終的な参加学生は373名で、これは教員養成課程2年生の54%にあたる（資料6）。学生は5回の活動が終わった時点で、所属の指導教員に活動記録票を見せ中間報告を行った。学生のなかには、日によって朝の登校指導から夕方の部活動指導補助まで、まる一日に渡って活動する者、休日に行われる運動会や学芸会の補助にあたる者、不登校気味の子どもの話し相手になる者、外国籍の子どもと日本語の練習をする者など、活動時間や活動内容も千差万別であった。

この間、いくつかの活動場所に担当教員が出かけ現地指導にあたった。どの活動先でも、今回のサポート活動に対する期待の声の方が多かった。

（7） 事後指導（1月25日）

活動先からのいくつかの声を紹介したあと、代表学生5名がサポート活動について発表を行った。どの学生も、貴重な体験ができたこと、今まで知らなかった子どもの新たな面について気づいたこと、特別支援が必要だと肌で感じたことなど、実感として得たものを素直に発表し、意欲的に活動できたことが伺えた（資料7）。今回参加した学生の中には、13回という回数に拘ることなく、3月まで現在の活動を続けていく者もいる。

（8） 参加学生からのアンケート結果（資料8）

「サポート活動を終えて、子ども理解は深まったと思いますか」という問いに対し

て、「大いにそう思う」59.1%、「ある程度そう思う」39.5%、合わせて98.6%であり、学生の子ども理解は大いに深まった。特に、子ども同士の関わり方から、子どもの置かれている状況を理解することが深まったようである。

「教員の仕事内容がどんなものであるか、理解は深まりかしたか」という問いに対して、「大いに深まった」37.3%、「ある程度深まった」55.5%、合わせて92.8%であり、教員の仕事に対する理解は深まった。

「サポート活動前に比べて、教員になりたいと、より思うようになりましたか」という問いに対して、「大いにそう思う」44.8%、「ある程度そう思う」43.4%、合わせて88.2%であり、教員になりたいという気持ちが高まった。

「活動先はあなたにとって適切なところだったと思いますか」という問いに対して、「大いにそう思う」68.9%、「ある程度そう思う」28.0%、合わせて96.9%であり、今回の活動先は適切なところであった。

「サポート活動はあなたにとって成果があったと思いますか」という問いに対して、「大いにそう思う」65.5%、「ある程度そう思う」30.8%、合わせて96.3%であり、大多数の学生に成果のあるものとなった。

(9) 不参加学生からのアンケート結果（資料9）

サポート活動に参加しなかった理由について尋ねたところ、「水曜日の午後に大学の部活動・サークル活動に参加しようとする」と、活動の開始時刻に間に合わなくなるおそれがあるため、サポート活動には参加しなかった。」が一番多かった。本学では部活動・サークル活動の時間を確保するため、従来から水曜日の午後には授業を入れておらず、学生が部活動・サークル活動を優先した結果である。しかし、参加した学生のなかには、午前中サポート活動をしてから、多少遅れてでも午後大学に来て部活動・サークル活動に参加した者もあり、必修化に向けては学生の意識改革を図る必要がある。

次に多かった理由は「学校サポート活動自体をしたいとは思わなかった」であった。これは意欲のない学生がかなりの数に上るということである。しかし、「サポート活動」と同様のボランティア活動に大いに意欲のある学生の中に「ボランティアなのに、単位をもらえることに違和感があった」という考え方を示す者もいた。より分かりやすいガイダンスに努める必要がある。

(10) 教育委員会からのアンケート結果（資料10）

「今回のサポート活動は、学校（施設）等や子どもの支援に役立ったと思いますか」という問いに対して、「大いにそう思う」57.9%、「ある程度そう思う」42.1%、合わせて100%であり、全ての市町村で役立ったことになる。

活動の頻度や時間、回数は適切との回答が多いが、増加を期待する声も少なからずあった。また、実践的指導力の向上や教職への意欲を高めるために役立ったとの声が、すべての市町村からあった。今回のサポート活動は、すべての市町村で高い評価を受けたと考えている。

(11) 活動先からのアンケート結果（資料 1 1）

「今回のサポート活動は、学校（施設）等や子どもの支援に役立ったと思いますか」という問いに対して、「大いにそう思う」47.4%、「ある程度そう思う」45.9%、合わせて93.3%であり、活動先からの評価はよかった。

「今回のサポート活動は、学校（施設）等の負担になったと思いますか」という問いに対して、「全くそう思わない」33.0%、「あまりそう思わない」53.6%、合わせて86.6%であり、この点でも評価はよかった。しかし、残りの13.4%は負担を感じており、この点は反省材料となった。負担を感じる要因として「学生に何をしてもらえばいいのか困った」という声もあり、今年度の活動の様子を広く紹介していくことが必要であると考えている。

その他の項目からは、大きな問題点は出てこなかった。活動先からの声としては、意欲のある学生か否かで評価が分かれた。「自ら進んで」という姿勢の大切さを指導の中で強調していきたいと考えている。

(12) 今年度のまとめ

活動先からは「学校は助かった」「子どもたちが楽しみにしている」「来年は増員してほしい」等、好意的な声が圧倒的に多かった。学生からも「自分にとって大きな成果となった」との声が大変多く、初めての取り組みとしては双方で良好な関係が築けたと考えている。不参加だった学生からは「やればよかった」という声も聞こえてきており、選択から必修化へのハードルは低いと考えている。

(13) 来年度に向けて

学生が多く、受け入れ先の確定までかなりの時間を要することがわかり、1年生向けの事業説明会を昨年の2月から前倒しして10月に行った。その際、希望票と申込書の2段階の受け付け方法から、申込書のみの1段階での受け付け方法に変更した。また、大学のある「刈谷市」に下宿生の希望が集中し、受け入れの容量を超えてしまうことがあったため、下宿生向けに大学に近い「刈谷市・豊明市・みよし市」地域を受け入れ先の選択枝として新設した。これらの変更をして募集をかけたところ、来年度の参加希望者は全体の87%にあたる614名に上った。受け入れ先のなかには、今年度実績が0というところもあり、そこについては訪問して事業説明を行った。幸いにもどこからも理解をいただき、活動場所の拡充を図ることができた。このことは、これからも毎年続いていく作業になると思われる。

今回明らかになった様々な課題を改善して、必修化に向けての詰めをしていきたいと考えている。今後、今年度活動を終えた2年生が3年生になっても、同じ活動場所ですサポート活動を行い、そこに新たに2年生が加わり、3年生から2年生にノウハウが伝わる、といった形ができれば、さらにその次の年には4年生・3年生・2年生がつながるといった形が生まれてくると考えている。そんなより良い形を目指して、学生の成長に資する活動になるよう取り組んでいきたい。

4. おわりに

本学にとっては、教育現場でのボランティア活動を単位化する初めての試みだった。教員養成課程約 700 名のうち、どのくらいの学生が履修するのか、はたして教育現場にどの程度の受け入れ先があるのか、教育現場でのどんな活動を対象とするのか、どのような観点で単位化するのか、大学教員はどうかかわるのか等、課題は山積していた。約 1 年間の準備期間を経て、実施に踏み切った。

愛知県及び名古屋市の教育委員会とのこれまでの連携の実績をもとに、快くご協力をいただくことができた。県内各市町の教育委員会も様々な形で受け入れ準備をいただき、相当数の受け入れ先を確保することもできた。活動先の皆様にもご多用の中、全面的にご支援いただいた。まずは、この場を借りて深く感謝申し上げたい。

学生にとっても初めてのことで、先輩に状況を尋ねることができない中、半数以上の学生が履修してくれた。この規模での実施は全国的にみても初の試みではないか。学生の口コミでこの活動のよさが広がり、来年度は 600 名を越える学生が履修希望を提出している。

期間中にも機会あるごとに、教育委員会事務局関係者や活動先の皆様に様子を尋ねてみると、概ねよい反応が返ってきた。資料にもあるように、アンケート結果をみると、教育委員会、活動先、参加学生からも肯定的な回答が数多くいただけてはいるが、課題も多い。来年度の実施に向けて、これらの課題について対応策を検討し、一層充実した活動になるようにしていきたい。

事後指導では、数名の学生に活動報告を行ってもらった。充実した活動をしてきた様子をうかがい知ることができた。今後、学習したいことでは、「発達障害のある子どもへの対応」「外国にルーツをもつ子どもの対応」等、愛知県の教育現場が抱えている課題を肌で感じることもできたようである。これらの声は、今後のカリキュラム改革に活かしていきたい。

最後に活動先からの声を 1 つ紹介したい。

「2 年生の子どもたちが、サポート活動が 12 月に終了と知り、涙を流し、子どもたちからお別れ会をやりたいと申し出がありました。週 1 回の活動でこれほど子どもたちの心をつかむ学生は見たことがないとベテランの担任の先生が感心していました。また、それを受けて、この学生さんも、子ども一人一人に心温まるメッセージカードを用意してくれたということです」

この活動を通して、「子どもって、すてき！」と多くの学生が感じ、来年秋の教育実習に向けて準備をし、教師になる決意を新たにしてくれたことと考える。

副学長（カリキュラム改革担当） 野 田 敦 敬

資料

愛知教育大学「学校サポート活動Ⅰ」受け入れ状況（市町村別）

28. 2. 4

市町村名	市町村事業での受け入れ						市町村事業以外での受け入れ				
	事業名称	活動内容	対象	活動期間等	活動時間等	募集人員	活動内容	対象	活動期間等	活動時間等	募集人員
名古屋市	なごや教職インターンシップ	学級担任補助、教科指導補助、学校行事補助等	小中特	6月～3月、応相談	1回2時間以上	370人(27年度)	※土曜学習だけで13回を超えることはむずかしい。				
	土曜学習いきいきサポーター	小学校で、土曜学習の支援補助	小	年間、応相談	土曜日午前	相談					
	トワイライトボランティア	子どもと遊んだり、運営スタッフの補助	小	年間、応相談	土曜日午前又は午後、平日午後	相談					

名古屋市市町村事業での受け入れに関する注意事項

※すべての事業において、大学へのサポート活動申込みの他に、個人で事業への申込みが必要となります。

「なごや教職インターンシップ」

募集開始：4月(H28年度は4月28日(木)締切)→説明会・面接：5月14日(土)→結果送付：5月下旬

【教員採用試験に関して】なごや教職インターンシップの活動が1年間で30回以上、または2年間で50回以上の活動をした参加者には、名古屋市公立学校教員採用試験の1次試験の一部を免除の申請可能(小学校・中学校・特別支援学校・養護教員志願者)

詳細は、名古屋市ホームページの該当ページや、当該ページへ3月頃掲載される28年度向けのリーフレットを参照すること。

「土曜学習いきいきサポーター」

募集開始：既に登録申込み中→説明会：4月末

【教員採用試験に関して】2年24回以上の活動への参加により、名古屋市の小中学校教員採用試験一次試験の総合教養免除の申請可能(小学校・中学校・特別支援学校・養護教員志願者)

詳細は、名古屋市ホームページの該当ページを参照すること。

「トワイライトボランティア」

募集開始：3月～(随時)

【教員採用試験に関して】2年24回以上の活動への参加により、名古屋市の小中学校教員採用試験一次試験の総合教養免除の申請可能(小学校・中学校・特別支援学校・養護教員志願者)

詳細は、教務課内掲示版の募集リーフレットを参照すること。

西三河								
岡崎市	学生支援員	発達障害対応、不登校対応等	小中	年間、応相談	週1回	相談		
碧南市	ハートフレンド	学校生活支援、不登校児童生徒への支援活動等	小中	年間、応相談	相談	多数		
刈谷市	放課後子ども教室	運営スタッフ補助	小	年間、応相談	平日午後	相談	学習指導補助、学校行事補助等	相談
	生活困窮世帯学習教室	生活困窮世帯児童への学習指導(主に国語・数学・英語)	小中	8月～3月	土曜日午後	相談	活動場所は、すこやか教室、富士松図書館、子ども相談センター、南部生涯学習センター	
豊田市	学生ボランティア	学習指導補助、部活指導補助、学校行事補助等	小中特	年間、応相談	相談	相談		
安城市	学校ボランティア	教科指導補助、実技指導補助、環境整備等	小中	年間、応相談	相談	相談		
	子どもの学習支援事業	生活困窮世帯児童への学習指導(主に国語・数学・英語)	中	4月下旬～9月10月～3月	土曜日午後	前・後期各6名	活動場所は、各小中学校でなく、安城市民会館	
西尾市	学生支援員	学校教育活動補助等	小中	年間、応相談	相談	相談		
知立市							学習指導補助、不登校指導補助等	相談
高浜市	学校支援ボランティア	授業支援、学習支援、日本語教育指導補助、特別支援学級支援、学校行事・部活動・環境整備補助等	小中	年間、応相談	相談	相談		
みよし市	学校支援ボランティア	授業補助等	小中	年間、応相談	相談	相談		
幸田町	幸田町学生ボランティア	授業支援、特別活動支援、児童生徒生活支援、学校安全支援等	小中	年間、応相談	相談	相談		

東三河											
豊橋市							学習指導補助、学校行事補助等	小中	相談		
豊川市	サマースクール	夏休み中の学習支援等	小中	夏休み期間	相談	相談	学習指導補助、学校行事補助等	相談			
蒲都市							学習指導補助、学校行事補助等	相談			
新城市	学校支援ボランティア	授業支援、特別活動支援、児童生徒生活支援、学校安全支援等	小中	年間、応相談	相談	相談	学習指導補助、学校行事補助等	相談			
田原市	教育サポートセンター事業	運営員・相談員等の補助、児童生徒支援	小中	相談			学習指導補助、学校行事補助等	相談			
設楽町							学習指導補助、学校行事補助等	相談			
東栄町							学習指導補助、学校行事補助等	相談			
豊根村							学習指導補助、学校行事補助等	相談			

尾張							
一宮市	学校教育支援ヤングボランティア	教科指導支援、教育活動支援、相談的な活動、部活動	小中	年間、応相談	相談	相談	
瀬戸市							学習指導補助、学校行事補助等 相談
春日井市							学習指導補助、学校行事補助等 相談
犬山市							学習指導補助、学校行事補助等 相談
江南市	スクールサポーター	学習支援等	小中	年間、応相談	相談	相談	
	土曜塾ボランティア	算数を中心とした補充学習支援等	小	年間、応相談	土曜日午前	相談	
小牧市	学習チューター	授業支援、外国人児童生徒の日本語指導支援等	小中	年間、応相談	相談	相談	
稲沢市							学習指導補助、学校行事補助等 相談
尾張旭市							学習指導補助、学校行事補助等 相談
岩倉市	教育フレッシュサポーター	学習支援、学校行事支援、学校生活支援等	小中	年間、応相談	相談	相談	
	とよあけフレンズ	不登校支援等	小中	年間、応相談	相談	相談	
豊明市	とよあけ土曜塾	学習支援等	中	年間、応相談	月2回の土曜日午後	相談	学習指導補助、学校行事補助等 相談
	放課後子ども教室	運営スタッフ補助	小	年間、応相談	平日午後	相談	
日進市	学生サポーター	学習支援、悩み相談、部活動指導補助等	小中	年間、応相談	相談	相談	
清須市							学習指導補助、学校行事補助等 相談
北名古屋							学習指導補助、学校行事補助等 相談
長久手市							学習指導補助、学校行事補助、特別支援等 相談
東郷町	学校運営事業	教科指導補助、部活動支援、安全活動支援等	小中	年間、応相談	相談	相談	
豊山町							学習指導補助、学校行事補助等 相談
大口町	学校支援ボランティア	児童生徒生活支援、教科指導支援、学校行事補助等	小中	年間、応相談	相談	相談	
扶桑町	学生スクールボランティア	児童生徒生活支援、教科指導支援、学校行事補助等	小中	年間、応相談	相談	相談	

海部							
津島市	学校支援ボランティア	学習支援、学校行事支援、適応指導支援、外国人支援等	幼小中	年間、応相談	相談	相談	
愛西市	あいさい土曜学習	学習支援	中	年間、応相談	土曜日	相談	学習指導補助、学校行事補助等 相談
弥富市	学校支援ボランティア	授業支援、特別活動支援、児童生徒生活支援、学校安全支援等	小中	年間、応相談	相談	相談	
あま市	学校支援ボランティア	学習支援、特別支援学級援助、学校行事支援等	小中	年間、応相談	相談	相談	
大治町	学校支援ボランティア	学習支援、学校行事支援、学校生活支援	小中	年間、応相談	相談	相談	
蟹江町	学校支援ボランティア	教育活動支援、児童生徒支援、環境整備支援、学校安全支援等	小中	年間、応相談	相談	相談	
飛島村							学習指導補助、学校行事補助等 相談

知多							
半田市	学校支援ボランティア	学習支援、学校生活支援、特別支援学級補助、外国人児童生徒指導補助等	小中	年間、応相談	相談	相談	
常滑市	学生ボランティア	学習支援、学校生活支援、特別支援学級補助等	小中	年間、応相談	相談	相談	
東海市							学習指導補助、学校行事補助等 相談
大府市							学習指導補助、学校行事補助等 相談
知多市							学習指導補助、学校行事補助等 相談
阿久比町	学校支援ボランティア	学習支援、学校生活支援、特別支援学級補助、図書館支援、環境整備支援等	幼小中	年間、応相談	相談	相談	
東浦町	学生ボランティア	学習支援、特別支援学級補助、教材作成支援、学校行事支援等	小中	年間、応相談	相談	相談	
南知多町							学習指導補助、学校行事補助等 相談
美浜町						小中	学習指導補助、学校行事補助等 相談
武豊町							学習指導補助、学校行事補助等 相談

※幼稚園、高等学校を第1希望とする場合、愛知県以外を希望する場合は、上記以外での個別の相談となります。

「学校サポート活動Ⅰ」

目的

学校や教育施設等でのサポート活動を通して、子ども理解を深め、教職への意欲を高めること

対象者

教員養成課程2年生の希望者

活動先

- ・愛知県内を中心とした幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校及び教育施設等
- ・市町村教育委員会等が実施する同等な事業

【本学からの紹介を原則とするが、学生自身がサポート活動先を探すことも認める】

活動内容

○活動内容の例示○

- 学級活動、総合的な学習の時間や教科の授業、準備
- 休み時間の遊びの企画・参加
- 給食、清掃等の当番活動
- 運動会、文化祭、合唱コンクール等の学校行事
- 長期休業中に学校が計画する学習活動
- 部活動の補助（活動期間を通して部活動のみは避ける）
- 不登校児童生徒への支援
- 発達障害等のある児童生徒への支援
- 特別支援学級、特別支援学校での支援
- 日本語教育指導での補助
- 土曜日の学習活動の補助
- 放課後子ども教室等での運営補助

●対象外となる活動●

- 学生単独での指導及び評価にかかわること
- 保護者への対応（常識的な挨拶は可）
- その他、活動先の校長等が対象外と判断するもの

全体の流れ



【希望票の提出について】

「学校サポート活動Ⅰ」希望票を、教務課入ロレポートBOXへ提出する。

提出期限：2月29日（月）

【申込書の提出について】

「学校サポート活動Ⅰ」申込書を、平成28年度前期履修期間に教務課入ロレポートBOXへ提出する。

提出期限：4月20日（水）

【活動先の決定、事前指導について】

活動先と活動開始日及び事前指導の日程を、学務ネット及び教務課前掲示板にて通知する。
各学生の開始時期に応じ、活動開始のおおむね1ヶ月前となるよう、事前指導の日程は複数回、実施計画する。
（自分で活動先をさがす場合は、申込書記入の活動開始時期をもとに教務課が指定する日に参加する。）

【サポート活動について】

実施期間は、9月～12月を原則とするが活動先の要請や希望により、これを超えても構わない。
活動時間や回数についても、週1回程度で3時間×13回を基本とするが、活動先の事情等によりこの限りでない。
（ただし、3時間×13回の39時間相当の活動時間は確保すること）
サポート活動先でサポート活動を行い、「学校サポート活動Ⅰ」活動記録票に活動内容を記入し、検印を受ける。
5回目の活動終了後に、指導教員へ「学校サポート活動Ⅰ」活動記録票を提示し、中間報告を行う。
すべての活動終了後に、活動から学んだことを「学校サポート活動Ⅰ」報告書として、指導教員へ提出する。

【事後指導について】

サポート活動に参加した学生は、1月に実施する事後指導へ参加する。
（事後指導は、一斉に実施する。）

（注）事前・事後指導を含め、15回の授業となるため、事前・事後指導に参加して、単位となる。

履修上の取り扱い

科目名:「学校サポート活動Ⅰ」

時間割:後期水曜1, 2限に担当し、水曜日午前中に3時間の活動を行えるようにする。
(ただし、活動については他の曜日、時間や1回あたり3時間以上でもよい。)
また、参加しない学生向けに、専攻により選択の専門科目を開講することもある。

単 位:2単位(○2)とする。

評 価:「学校サポート活動Ⅰ」活動記録票及び「学校サポート活動Ⅰ」報告書の提出により、可否の認定で行う。
(S, A, B, C評価は行わない。)

授業担当:原則2年生の指導教員があたり、サポート活動の把握を行う。
なお、活動先への訪問は原則行わない。

その他

(1)保険について

学生教育研究災害傷害保険、学生教育研究賠償責任保険で対応する。

(2)謝金について

活動に対しての報酬は受け取らない。交通費程度のものは可とする。

(3)留意事項

あいさつ、服装、身だしなみ、時間の厳守、謙虚さなどの社会的マナーをもって行動する。

守秘義務について、児童生徒や教職員のプライバシーにかかわることを口外しない。

また、ブログやツイッターなどに活動の様子や感想を載せない。

保護者や児童生徒と連絡先を交換するなどの個人的な関わりをもたない。

様式

「学校サポート活動Ⅰ」活動記録票(例)

サポート活動先() 氏名()

月日	活動時間	活 動 内 容	所属担当者印
9/10	9:00 ～ 12:40	※ 記入例 ・算数の時間に指導補助 ・学級担任の事務補助(プリント印刷) ・大放課に学級全員でボール遊び	
9/17	8:15 ～ 11:40	・登校時、校門で挨拶活動 ・理科の時間に実験の準備補助 ・学級活動で話し合いに参加	

「学校サポート活動Ⅰ」報告書

1) 以下の形式でA4用紙3～4ページにまとめる。(両面印刷で2枚以内とする)

2) 文字のポイントは基本 10.5 ポイントまたは 11 ポイントとする。

平成 年 月 日提出

課程 選修・専攻・コース	学 籍 番 号	氏 名
サポート活動先		
1 サポート活動で学んだことと自己課題 活動内容 ※サポート活動先で活動した内容について簡潔に記述する。(箇条書きでも良い) 活動を通して学んだことと自己課題 ① 子ども理解の観点から ア 学んだこと イ 自己課題 ※サポーターとしての児童生徒や学級・学年への関わりの中で、子ども理解ができたと感じた点や教師として必要だと感じた点、そこから浮かび上がった自分自身の課題 ※ア、イとも文章でまとめても良いし、箇条書きにしても良い。 ② 教師又は指導者の仕事の観点から ア 学んだこと イ 自己課題 2 関心のある今日的な教育課題または今後研究を深めたい教育課題 ※今日的な教育課題の中で、特に関心をもっている教育課題について、今回の活動で学んだことにも触れながらまとめる。		

資料 3

「学校サポート活動Ⅰ」希望票

課程		ふりがな	
選修・専攻・コース		氏 名	
学籍番号			
携帯電話番号			

Ⅰ 希望するものに○をつけてください。

- () 学校サポート活動Ⅰに参加する。
 () 学校サポート活動Ⅰには参加せず、選択授業を受講する。

「学校サポート活動Ⅰ」の参加を希望した人は、Ⅱ以降も記入してください。

Ⅱ サポート活動先を選ぶにあたり、次のどちらにしますか。

- () 大学からの紹介を希望する。
 () 自分でさがす。

サポート活動先について

- ※1 自宅から通学している人は、居住地の市町村または居住地近隣の市町村を原則とします。
 ※2 下宿をしている人は、可能な限り出身地の市町村を選択してください。ただし、難しい場合は下宿近くの市町村も希望できます。
 ※3 名古屋市の教員（小・中・特別支援学校）をめざす人は、名古屋市を希望すると採用試験の科目免除の対象になります。

Ⅲ 希望する市町村名を記入してください。第1希望だけの記入や、第2希望までの記入もありえます。

第1希望	第2希望	第3希望

Ⅳ 希望する校種等を記入してください。幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・その他（ ）から選択

第1希望	第2希望	第3希望

Ⅴ 名古屋市のように同じ市町村のなかで複数の事業がある場合や、上の表では表せない場合は、あなたの希望がわかるように以下に記入してください。

--

提出期限：平成28年2月29日（月）

資料 4

「学校サポート活動Ⅰ」申込書

平成 年 月 日申込

課 程																					
選修・専攻・コース																					
学籍番号		男 ・ 女	生年月日																		
ふりがな			平成 年 月 日生																		
氏 名			年齢 歳 (平成28年4月1日現在)																		
住所	〒 —																				
連絡先	連絡先TEL : 携帯TEL :																				
移動手段	車等あり ・ 自転車あり ・ 公共交通機関のみ																				
最寄りの利用 交通機関 自宅または現住所 →最寄り駅 →主要駅 (名鉄・地下鉄等) (例にならって記入)			(例) 自宅または現住所 ↓ 徒歩10分 井ヶ谷口(名鉄バス) ↓ 25分 知立駅(名鉄)																		
希望市町村	第1希望	第2希望	第3希望																		
希望校種等	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・その他() から選択																				
	第1希望	第2希望	第3希望																		
特技・資格など																					
活動の開始時期	() 月から可能																				
大学の前・後期で活動可能な時間帯を記入してください。 可能な場合(終日、午前、午後、〇時～〇時)、可能でない場合(×)、未定は(未定) <table border="1"> <tr> <td>曜 日</td> <td>月</td> <td>火</td> <td>水</td> <td>木</td> <td>金</td> </tr> <tr> <td>(前期) 活動可能 時間帯</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(後期) 活動可能 時間帯</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				曜 日	月	火	水	木	金	(前期) 活動可能 時間帯						(後期) 活動可能 時間帯					
曜 日	月	火	水	木	金																
(前期) 活動可能 時間帯																					
(後期) 活動可能 時間帯																					

提出期限：平成28年4月20日(水)

愛知教育大学「学校サポート活動Ⅰ」における留意事項

学生は、サポート活動先の管理職（校長等）の指導・指示に従って活動すること。
その上で、次の点に留意する。

1 全体を通して

- （１）愛知教育大学の学生として、自覚と責任をもって「学校サポート活動Ⅰ」の活動を行う。
- （２）宗教に関する勧誘及びそれに類することは行わない。
- （３）営利目的ととられる言動及びそれに類することは行わない。
- （４）政治活動及びそれに類することは行わない。

2 児童生徒とのかかわりについて

- （１）どの児童生徒にも分け隔てなく温かく接し、呼称には敬称をつける。
- （２）注意すべき言動に接した場合、児童生徒が理解できるように注意することはよいが、暴言による威嚇や暴力行為、懲戒は許されない。
- （３）児童生徒から悩み事等の相談を受けた場合は、必ず担任教諭に連絡する。
- （４）児童生徒への個別対応は行わない。
- （５）児童生徒と個人的なかかわりは持たない。
 - ・ 住所や電話番号を教えない。メール・LINE・SNS等コミュニティサイトでの関係を作らない。
 - ・ 活動日であるなしにかかわらず、児童生徒を校外へ連れ出すことはしない。

3 保護者とのかかわりについて

- （１）保護者とはかかわらないことを原則とする。挨拶等は常識として礼儀正しく行う。
- （２）保護者から相談事やトラブル等への対応を求められた場合は、すぐに教職員に連絡する。

4 学校での活動という観点から

- （１）教育現場にふさわしい良識ある態度、外見に努める。
 - ・ 爪は短く、アクセサリーは外す。
 - ・ 動きやすい清潔感のある服装で参加する。
- （２）出校時刻は厳守する。万一遅れる場合は、必ず学校へ連絡する。
- （３）無断欠席は絶対にしない。
- （４）校内では名札を着用する。
- （５）守秘義務について、児童生徒や教職員のプライバシーにかかわることを知り得た場合、口外しない。

また、プライバシー情報の有無にかかわらず、インターネットのブログ等で「学校サポート活動Ⅰ」の様子や感想等を発信しない。
- （６）活動にあたっては、自分勝手な判断はせず、教職員の指示を受けること。（特に児童生徒の健康や安全に関すること）

資料 6

参加学生数一覽

所 属	学生数	参加人数	男	女
初等教育教員養成課程 幼児教育選修	20	20	1	19
初等教育教員養成課程 教育科学選修	23	12	1	11
中等教育教員養成課程 教育科学専攻	7	5	1	4
初等教育教員養成課程 情報選修	13	9	3	6
中等教育教員養成課程 情報専攻	11	5	4	1
初等教育教員養成課程 国語選修	58	40	13	27
中等教育教員養成課程 国語・書道専攻	19	11	3	8
初等教育教員養成課程 社会選修	65	35	26	9
中等教育教員養成課程 社会専攻	18	12	11	1
初等教育教員養成課程 数学選修	53	28	18	10
中等教育教員養成課程 数学専攻	31	7	6	1
初等教育教員養成課程 理科選修	61	37	25	12
中等教育教員養成課程 理科専攻	32	18	10	8
初等教育教員養成課程 音楽選修	27	6	0	6
中等教育教員養成課程 音楽専攻	6	0	0	0
初等教育教員養成課程 美術選修	26	23	2	21
中等教育教員養成課程 美術専攻	7	4	1	3
初等教育教員養成課程 保健体育選修	36	21	10	11
中等教育教員養成課程 保健体育専攻	27	8	5	3
中等教育教員養成課程 技術専攻	13	12	11	1
初等教育教員養成課程 家庭選修	32	17	1	16
中等教育教員養成課程 家庭専攻	12	7	0	7
初等教育教員養成課程 英語選修	8	0	0	0
中等教育教員養成課程 英語専攻	19	4	0	4
特別支援学校教員養成課程	26	5	0	5
養護教諭養成課程課程	45	27	0	27
合 計	695	373	152	221

地区	市町村	事業名	参加人数	男	女
名古屋市	名古屋市	なごや教職インターンシップ	74	36	38
		土曜学習いきいきサポーター	3	2	1
		トワイライトスクール	12	3	9
		その他	1	1	0
		幼稚園	3	0	3
		名古屋大学附属高校	1	0	1
尾張	一宮市	学校支援ボランティア・ヤングボランティア	17	8	9
		一宮東特別支援学校	1	0	1
		一宮聾学校	1	0	1
	瀬戸市	学校サポート活動	2	1	1
		学校サポート活動	11	6	5
	春日井市	春日井高校	1	1	0
		春日台特別支援学校	1	0	1
		学校サポート活動	2	0	2
	江南市	江南市スクールサポーター	1	0	1
	小牧市	学習チューター	1	0	1
	稲沢市	学校サポート活動	5	1	4
	岩倉市	教育フレッシュサポーター	4	0	4
	豊明市	学校サポート活動	14	6	8
	日進市	学生サポーター	3	2	1
	北名古屋市	学校サポート活動	5	2	3
	長久手市	学校サポート活動	2	1	1
	東郷町	学校運営事業	7	4	3
	豊山町	学校サポート活動	1	1	0
	大口町	サポートルームさくら	3	2	1
海部	愛西市	学校サポート活動	6	3	3
	弥富市	学校支援ボランティア	1	0	1
	あま市	学校支援ボランティア	1	0	1
	蟹江町	学校支援ボランティア	3	1	2
	飛島村	学校サポート活動	1	1	0
知多	半田市	学校支援ボランティア	4	0	4
	常滑市	学生ボランティア	6	1	5
	東海市	学校サポート活動	4	1	3
	大府市	学校サポート活動	4	3	1
	知多市	学校サポート活動	1	0	1
	東浦町	東浦町学生ボランティア	5	3	2
	武豊町	学校サポート活動	2	0	2
西三河	岡崎市	学生支援員	14	6	8
		幼稚園	1	0	1
	碧南市	ハートフレンド	2	2	0
		学校サポート活動	32	13	19
	刈谷市	生活困窮世帯学習教室	10	4	6
		放課後子ども教室	1	0	1
		幼稚園・保育園	10	1	9
	豊田市	学生ボランティア	21	8	13
		幼稚園	2	0	2
	安城市	学校サポート活動	14	8	6
		子ども学習支援事業	2	0	2
	西尾市	学習支援員	9	2	7
	知立市	学校サポート活動	3	1	2
	高浜市	高浜市学校支援ボランティア	1	1	0
	みよし市	学校支援ボランティア	12	4	8
	幸田町	幸田町学生ボランティア	1	0	1
東三河	豊橋市	学校サポート活動	16	8	8
	豊川市	学校サポート活動	4	2	2
	田原市	学校サポート活動	1	1	0
県外	静岡県浜松市	県立浜松南高等学校	1	1	0
	三重県いなべ市	学校サポート活動	1	0	1
	三重県四日市市	四日市市学生ボランティア	1	0	1
合 計			373	152	221

※「学校サポート活動」は本学から各市町村の教育委員会に依頼した場所になります。

資料 7

実際に参加した学生の声



マット運動のサポートをしました
(知立市 小学校)

給食の準備をしました
(刈谷市 小学校)



朝の分団登校で安全指導をしました
(北名古屋市 小学校)

理科の実験の助手をしました
(安城市 中学校)



幼稚園の園庭で遊びの補助をしました
(刈谷市 幼稚園)

絵本の読み聞かせの助手をしました
(愛知県 特別支援学校)



参加学生の声【上の写真以外】

○先生方の姿から、子ども一人一人の性格や発達など、様々な視点から子どものことを理解し、その子どもにあった言葉がけや援助をしていくことの大切さを学びました。【 刈谷市 保育園 】

○先生方の注意の仕方を見て、本気というか熱意を感じました。こちらが本気で向き合うことが、生徒との信頼関係を築くうえで大切だと思いました。【 岡崎市 小学校 】

○児童が学習を進めるために、指導者として準備を十分に行い、不測の事態をあらかじめ想定したうえで危険がないようにしなければならないことを学んだ。【名古屋市 土曜いきいきサポーター 】

○自分の知らない時事問題について、子どもから尋ねられることがあった。教師として、広い知識と最新の情報を把握しておくことが大切であると改めて感じた。【 大府市 中学校 】

資料
8

アンケートの目的は、愛知教育大学「学校サポート活動Ⅰ」の到達目標および成果を、より明確にするための基礎資料とするものです。ご回答の内容については、他の目的に使用するなどご迷惑をお掛けすることはありません。

平成28年度 愛知教育大学「学校サポート活動Ⅰ」アンケート 【学生用】

記入者の所属について課程に○を付け選修・専攻を記入し、活動先についても記入してください。

- ・所属（ 初等 ・ 中等【 選修・専攻】 ・ 特別支援 ・ 養護教諭）
・活動先市町村（ ） ・活動事業名（ ）
・活動先校名等（ ）

I サポート活動を終えて、子ども理解は深まったと思いますか。 【 】

1. 大いにそう思う 2. ある程度そう思う 3. あまりそう思わない 4. 全くそう思わない

Ⅱ どの点で子ども理解が深まったと思いますか。おもなものを2つ選んでください。
【 】【 】

1. 子どもの表情や動作が、何を意味しているかを読み取ることができるようになった
2. 子どもの発する言葉が、どんな意味をもっているかを理解することができるようになった
3. 子どもの活動が、どんな意味をもっているかを理解することができるようになった
4. 子ども同士の関わり方から、子どもの置かれている状況を理解することができるようになった

Ⅲ 学校等で行われている教育活動の理解は深まったと思いますか。 【 】

1. 大いにそう思う 2. ある程度そう思う 3. あまりそう思わない 4. 全くそう思わない

IV どの点で教育活動の理解が深まったと思いますか。おもなものを3つ以内で選んでください。
【 】【 】【 】

1. 学級活動や総合的な学習の時間
2. 教科の授業や準備
3. 休み時間の子どもの過ごし方
4. 給食、清掃等の当番活動
5. 運動会、文化祭、学芸会などの学校行事
6. 部活動
7. 不登校児童生徒への支援
8. 発達障害等のある児童生徒への支援
9. 特別支援学級、特別支援学校での支援
10. 日本語教育を必要とする児童生徒への支援
11. その他（具体例：_____）

V 教員の仕事内容がどんなものであるか、理解は深まりましたか。 【 】

1. 大いに深まった 2. ある程度深まった 3. あまり深まらなかった 4. 全く深まらなかった

VI サポート活動前に比べて、教員になりたいと、より思うようになりましたか。 【 】

1. 大いにそう思う 2. ある程度そう思う 3. あまりそう思わない 4. 全くそう思わない

Ⅶ 週1回程度という頻度についてどのように思いますか。【 】

1. 多いと思う 2. 適度である 3. 少ないと思う

Ⅷ 1回3時間以上という時間数についてどのように思いますか。【 】

1. 多いと思う 2. 適度である 3. 少ないと思う

Ⅸ 13回以上という回数についてどのように思いますか。【 】

1. 多いと思う 2. 適度である 3. 少ないと思う

X 活動先はあなたにとって適切なところだったと思いますか。【 】

1. 大いにそう思う 2. ある程度そう思う 3. あまりそう思わない 4. 全くそう思わない

XⅠ サポート活動はあなたにとって成果があったと思いますか。【 】

1. 大いにそう思う 2. ある程度そう思う 3. あまりそう思わない 4. 全くそう思わない

XⅡ 来年度も空いた時間を利用して、サポート活動のような学校支援ボランティアをやりたいと思いますか。【 】

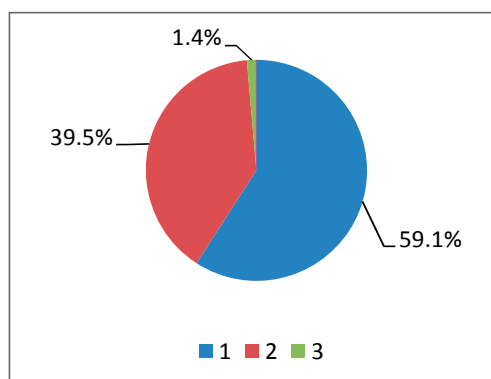
1. 大いにそう思う 2. ある程度そう思う 3. あまりそう思わない 4. 全くそう思わない

XⅢ 今回のサポート活動についての改善点、ご意見、ご感想などがありましたらお書きください。

--

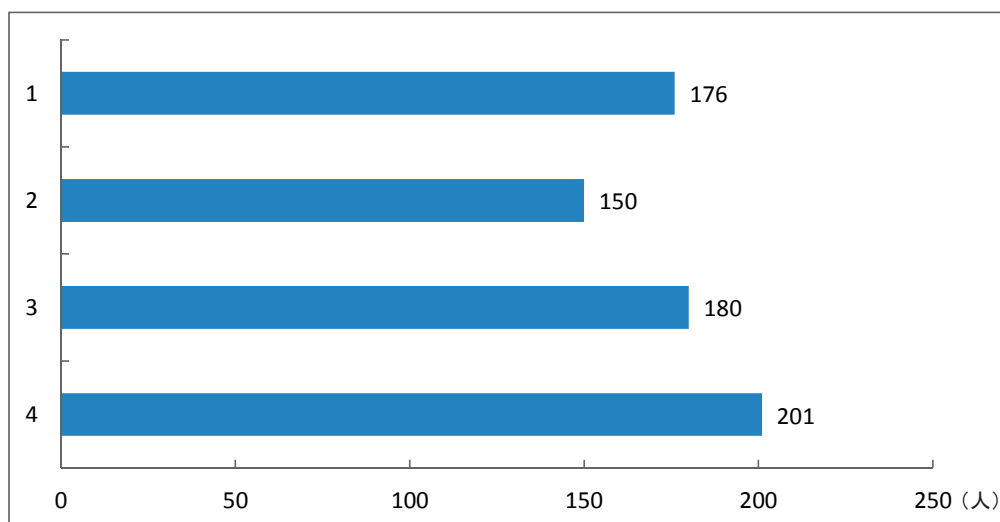
I サポート活動を終えて、子ども理解は深まったと思いますか。

1. 大いにそう思う	211
2. ある程度そう思う	141
3. あまりそう思わない	5
4. 全くそう思わない	0



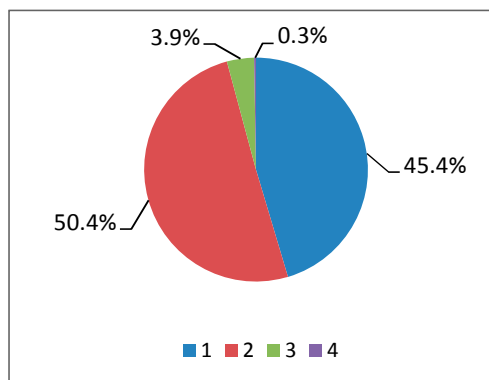
II どの点で子ども理解が深まったと思いますか。おもなものを2つ選んでください。

1. 子どもの表情や動作が、何を意味しているかを読み取ることができるようになった	176
2. 子どもの発する言葉が、どんな意味をもっているかを理解することができるようになった	150
3. 子どもの活動が、どんな意味をもっているかを理解することができるようになった	180
4. 子ども同士の関わり方から、子どもの置かれている状況を理解することができるようになった	201



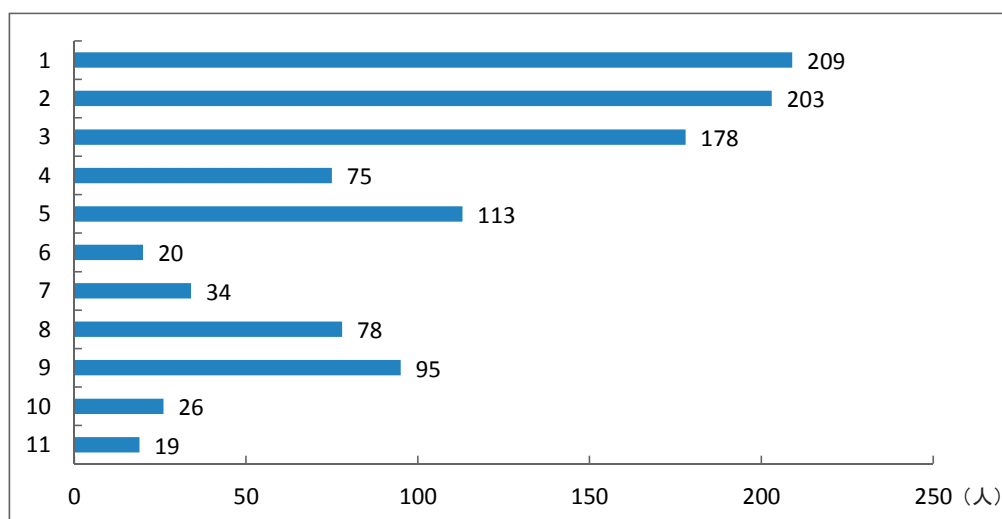
Ⅲ 学校等で行われている教育活動の理解は深まったと思いますか。

1. 大いにそう思う	162
2. ある程度そう思う	180
3. あまりそう思わない	14
4. 全くそう思わない	1



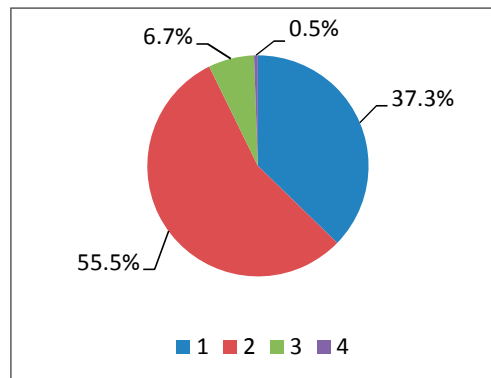
Ⅳ どの点で教育活動の理解が深まったと思いますか。おもなものを3つ以内で選んでください。

1. 学級活動や総合的な学習の時間	209
2. 教科の授業や準備	203
3. 休み時間の子どもの過ごし方	178
4. 給食、清掃等の当番活動	75
5. 運動会、文化祭、学芸会などの学校行事	113
6. 部活動	20
7. 不登校児童生徒への支援	34
8. 発達障害等のある児童生徒への支援	78
9. 特別支援学級、特別支援学校での支援	95
10. 日本語教育を必要とする児童生徒への支援	26
11. その他	19



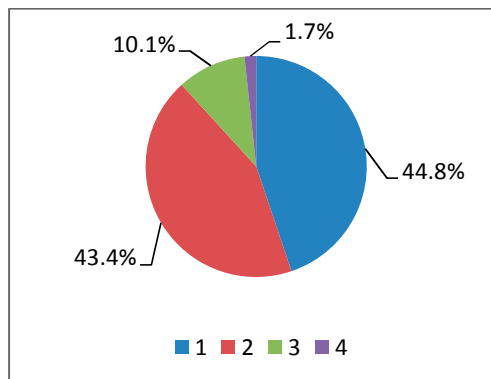
V 教員の仕事内容がどんなものであるか、理解は深まりましたか。

1. 大いに深まった	133
2. ある程度深まった	198
3. あまり深まらなかった	24
4. 全く深まらなかった	2



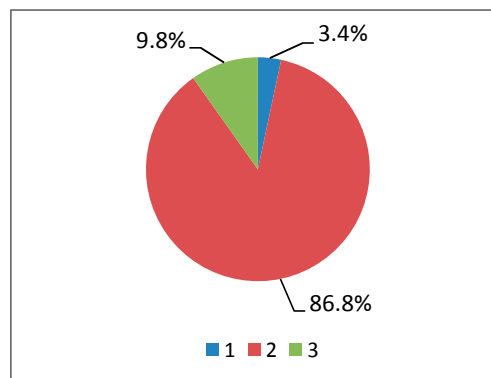
VI サポート活動前に比べて、教員になりたいと、より思うようになりましたか。

1. 大いにそう思う	160
2. ある程度そう思う	155
3. あまりそう思わない	36
4. 全くそう思わない	6



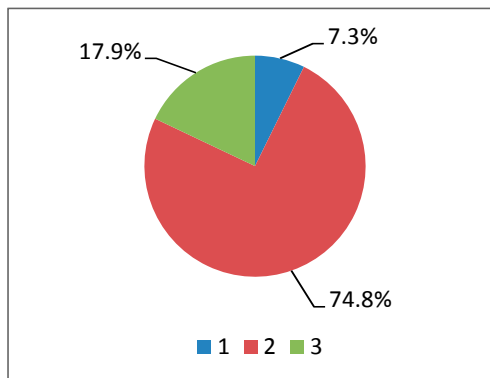
VII 週1回程度という頻度についてどのように思いますか。

1. 多いと思う	12
2. 適度である	310
3. 少ないと思う	35



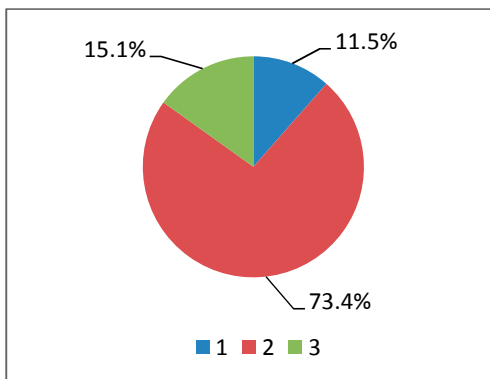
VIII 1回3時間以上という時間数についてどのように思いますか。

1. 多いと思う	26
2. 適度である	267
3. 少ないと思う	64



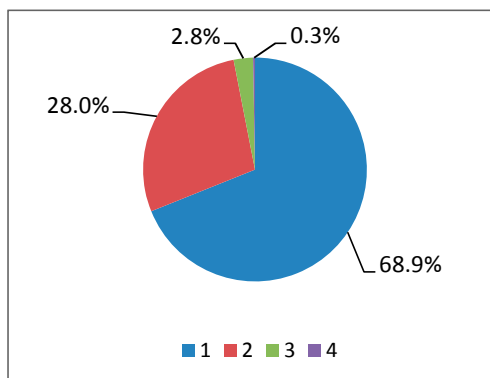
IX 13回以上という回数についてどのように思いますか。

1. 多いと思う	41
2. 適度である	262
3. 少ないと思う	54



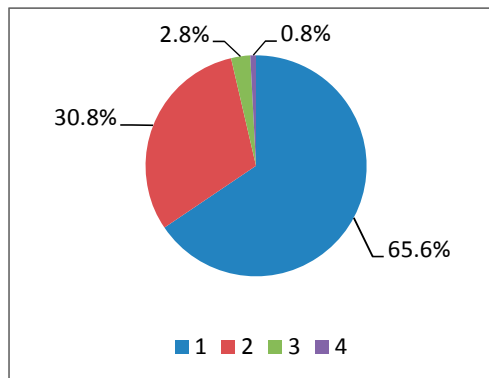
X 活動先はあなたにとって適切なところだったと思いますか。

1. 大いにそう思う	246
2. ある程度そう思う	100
3. あまりそう思わない	10
4. 全くそう思わない	1



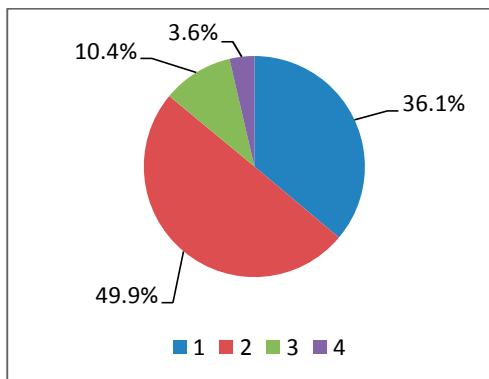
X I サポート活動はあなたにとって成果があったと思いますか。

1. 大いにそう思う	234
2. ある程度そう思う	110
3. あまりそう思わない	10
4. 全くそう思わない	3



X II 来年度も空いた時間を利用して、サポート活動のような学校支援ボランティアをやってみたいと思いますか。

1. 大いにそう思う	129
2. ある程度そう思う	178
3. あまりそう思わない	37
4. 全くそう思わない	13



XⅢ 今回のサポート活動についての改善点、ご意見、ご感想などがありましたらお書きください。

※抜粋

交通費の支給があるとうれしかった。将来就職する可能性がある市で、実習ではいけない場所に行くことができてよかった。
時間割的にきつい生徒もいると思う。県外での活動をもっと充実させてほしい。週1で長い期間子どもと関われるので、子どもの成長がよくわかりました。
実習から継続して活動できたのが良かった。実習では体験できなかった教材製作や、いろいろな年齢のクラスで活動できて良かった。サポート活動があったから意欲が高まったかと言われるとそうではない。幼教は十分に実習が多いし、元々意欲が高い人が集まっている。「ボランティア」に行きたいと思ったから参加した、単位化し必修化する必要は全く感じられない。
実習とは異なり、気持ちに少し余裕がある中でサポート活動にのぞむことができました。また、保育所実習2週を終えた後のサポート活動であったため、視点を絞って保育活動や環境などを見て学ぶことができたおもいます。週1回で3時間のみであったため子どもたちと関係を築くのに時間がかかってしまったように思います。他の授業もあり、難しいとは思いますが、もう少し時間を長くしたり週あたりの回数を増やすと、早く打ち解けられると思います。しかし、逆に短い時間で様々な子どもと関わるにはどうしたらいいかを考え、実践できる良い機会になったとも感じました。今回の活動で学んだことや感じたことを、これからの学びや実習などに生かしていきたいと感じました。
実習と違って週1回で長期間を通して関わることで、時期によって子どもの様子や発達によってどのように保育室の環境を作ることができるか、どう保育内容をかえていけるかをみることで良い経験になりました。4月から入ってみて、クラスの雰囲気や子ども同士のコミュニケーションをどのように育てていくのかも知りくなりました。
前情報が少なくて困惑した。具体的な活動内容を事前に知らせて欲しい。学生のためではなく、大学のために行われてるような印象を受けた
まわりの人に3時間でいいのによくやるね、といわれましたが、9月から12月の4ヶ月間、毎週水曜日8:15～16:45フルタイムでサポート活動を行いました。1日の先生の仕事は多岐にわたり、本当に大変な職業だと思いました。おそらく、教育実習生としては教えることにしか意識が向かず、教師という仕事について考える余裕はないと思います。2年生のうちに子どもと関わり、教師という職業について考えるという機会が得られて良かったです。
自分の選択科目をなるべく多く見るできるように、学校側に調節してもらいたい。
小学校にサポート活動に行って、たくさんのことを学ぶことができたので良かったです。
もっと多くの地域と連携して欲しい。瀬戸市にはボランティアを求めている学校がもっとあると思う。
ボランティアと言うことは逆に言うと責任が重要なことはできなくて、その中途半端な立場で見学という感覚でやっていることが自分の中で悩んだ。
学校側が何をするかかわらず、とまどったので大学側からも活動先の学校にもう少し説明があってもいいのではないかと考えた。
とてもいい学校で活動することができました。週1回じゃなく、もっとたくさんの頻度の方が子どもと仲良くなれるし、さらに学べると思います。
子どもたちとの関わり方、授業での様子など教員側からの視点で見たり聞いたり感じたりすることができた。
今回のサポート活動に参加したことで、3年後期の教育実習への不安が少し減ったような気がします。また、大学で教育について学ぶだけではわからないような現場での実践的な体験はとても貴重なものだと思います。
障害のある子どもたちととても多くの時間を過ごして彼らが何を考えているのか、どうしたら話を聞いてくれるか多くのことを学べた。ただ、叱り方がわからず、2、3ヶ月は戸惑う場面が多かったです。
毎週同じ時間だったので、他の曜日にもサポート活動として参加したかったです。行事などで土曜日には参加させていただきました。
サポート活動のために大学の授業を移動させることがあると思いますが、移動させる授業を学生の負担にならないように考えてほしい。
短い時間でも大変有意義なものであった。大学の授業の関係で、あまり確実な時間が取れない学生であっても、何とか派遣先を紹介してもらえようように面接してほしい。また、中学校の派遣先を増やしてもらいたい。
幼児教育は時間割的にも実習的にも、かなり厳しい日程でこの活動をしていた子が多かったと思います。活動先が幼稚園の場合は、サポート活動への理解がなかなか難しい子もいたようです。6時間を2回分にしていたら、もう少し余裕を持ってできる子も増えたのではと思いました。
リテラシーの授業で障害(発達障害などが主)のことを習ったり、学科の授業でキャリア教育について考えたり、いろいろな教科の研究科目を受けたりとした2年の今だからこそ、子供目線と教師目線の両方を感じながら、サポート活動することができた。3年生だと教師目線が強くなったり、1年生だと教師目線が足りなかったり、また、その時にしか感じられない何かがあると思いますが、2年生というのはよい時期だったと思います。
今回の活動では1つのクラスに入らせてもらい、子供たちと接する中で、性格個性は様々で教師はそれを配慮しながら上手く学級づくりをしていると感じました。担任の先生は、女の先生でしたが「時間・けじめ」など大切なことは叱るし、その叱り方も子どもたちが、なぜだめかを理解させて反省させている、頭ごなしに叱っていない。またその雰囲気を後には引きずらず、楽しい雰囲気や授業をやっている、など、すごく簡単そうにその先生はやっていましたが、自分はこのままでは絶対にできないと感じました。先生や子供たちから多くのことを学ばせていただき、それとともに、今の自分に何が足りていないかというのを学ばせていただきました。また、学校現場を見ることで、本当に先生方はやることが多い、しかし、子供たちをしっかりと見てやっていかないといけない、という大変さがわかりました。でもその中でもやりがいがあると感じ、絶対に教師になろうと改めて思いました。活動先の先生方には本当に感謝しかありません。改善してほしい点は、はじめ小学校に行ったときに、向こうの先生方があまり活動について理解してくれなくて、自分もどう説明してよいかわからなかった。ガイダンス、TOEICなどかぶるものが多い。

一回3時間では子供たちとは打ち解けあい始めたころに終わってしまうので、1日いるべきだと感じる。
今年度から愛教ではじまったことで、「単位もらえるからね」と最初の頃町の担当の方に言われたのが悔しかったです。確かにしっかり活動すれば、単位が出るということでしたが、それが一番の目的ではなく、水曜日に授業がなく時間があるならボランティアをして有意義な時間にしようという思いで参加したのに、他大学のボランティアの人と比べられるなど、少しだけ悔しかったです。お世話になった小学校では、本当によくしてもらい、かかわった子どもたちがこれからどう成長し卒業していくのか、このまま見ていたいと思います。
週1であったため、子ども一人ひとりの性質を把握するのに時間がかかりました。しかし、学校サポート活動による学校側の負担を考えると、学生の子供理解のために週2、3とかにするより、週1程度が適切であると考えました。そう思うのも、学校「サポート」といっても、実際に学生が役に立つというよりは、あくまでも学生が学ぶためにおじゃまさせてもらっている、という立場であると実感したためです。学生の立場で、教員の負担を減らすために、できることは少ないですが、これからも週1程度でお邪魔させていただき、自分のできる範囲のことをやっていこうと思います。
教員の方と話し合いの時間が少ないと感じた。忙しい中なので仕方ないとは思いますが、注意点などを話し合う時間がほしかったと感じた。
私はお弁当と一緒に食べましたが、給食を食べたかったです。授業中にどこまで生徒とかかわってよいかわからなかった。
サポート活動している本学の学生同士の意見交流や、実際に起きた目にした事例について話し合う機会を公的に設けてほしかったです。
活動内容には満足していますが、必要ない感じが相手の先生の中にもあったので肩身が狭い思いをしました。はじめのほうに小学校の先生に活動の目的や趣旨を知ってほしかったと思います。児童との会話や授業の支援など、児童のかかわりがとても楽しかったし現場について少し理解できたと思います。全体のアンケート結果もそうであるか、個別にアンケート結果について教えてほしいと思った。自分の客観的に見てどうだったのか知りたいです。
実際の現場に行ったことで、子供に対するさらなる理解や、今まで知らなかったことを知ることができました。
とても勉強になったいい機会だった。たまたま自分の住んでいる市町村に学生のボランティア制度があつてすんなりいったが、ないところの学生はどうだったのかなと思った。
下宿しているの、週一で家に帰らなければいけないのがとても大変だった。希望者には、できるだけ大学の近くでできるようにしてもらいたい。
快く受け入れてくださり、とても楽しく活動させていただいております。ぜひ今後も継続していきたいです。
普段小学生とはそんなにかかわる機会がないので、この活動を通してかかわることができ、教員の子供への対応の仕方など、多くのことを学ぶことができました。
サポート活動を必修にして、学生が教員に対してどう思うのかのところで、良い意味での変化を持つ人が多くなれば、良い授業になると感じている。
事務的な作業が多く、児童たちと接する機会があまりなかった。授業補助などが多いと、そのクラスの児童たちに顔を覚えてもらうことができ、放課の時間などで仲良くできたかもしれない。
いきなり2回の実習をしたり、2回の実習のみで現場の先生になることには不安があった。完全に不安が消えることはないが、現場を見させてもらうことにより、覚悟、決意がより高まったように思う。
単位を取るためだけに来ているという見方をされた。自分では意志を持って参加したが、そのように受け取られて非常に残念であった。大学からも、意欲のある人が行っている旨を伝えてほしい。
色々な学年でいろいろな体験をさせてもらいありがとうございました。次やることがあれば、1つの学級に配属してもらい、やってみたいとも考えました。
はじめ私はボランティアという認識でいましたが、学校側(サポート活動先)は教育実習のプレ版という認識で、私も学校側もどうしたらいいかわからないことがありました。ボランティアなのか、プレ教育実習という活動なのか、定義をもう少し統一してほしかったです。
自分で考えて行動する場面が多かった。そのため参加学生の意欲と積極性が不可欠であると感じた。とてもいい経験になったので、これからも意欲のある学生を集めて、ぜひとも続けていってほしい。
せっかく午前中授業の水曜日をつかっているのだから、もっと活動してもよいと思う。3時間では朝の打ち合わせからいたら、授業はたった2時間しか見られないし、放課も子供達とあまり遊ばず、理解に足りないと思う。また、子供たちは給食と一緒に取ることでもかなり心を開いてくれるようになった。私は基本的に清掃の時間まで5時間半活動をしているが、ガイダンスなどで3時間で切り上げると全然活動したという感じがしない。午前中ずっと子供と過ごすことで見えてくるものも多いと思う。問題児だけでなく、いい子たちにも気づくことができる。担当のクラスがあるかないかは人によると思うけど、(私はない)クラス全体を眺めるためにも、もう少し活動時間を延ばすべきだと思う。
今年度が初めての実施だったこともあってか、証明書の提出期限日が最初の説明と違う日になっていたり、サポート活動に参加しない場合どうするのか不明瞭なところがあったりと、いくつか気になる場所があったので、そこを今後改善していただけたら幸いです。
実習を前に、現場の教室を見ることができて有意義でした。1回3時間の時間を設けているなら、もう少し単位数を増やしていただけると、生徒も助かるのではないかと感じます。
学校サポート活動を通して学校の内部に入り込み児童・職員とさまざまなつながりを作ることができた。また、色々な学校の裏事情を知ることができて、社会人になることの大変さ、つらさを知った。しかし、今それを知ることができて本当によかったと思う。
自分が行かせてもらった小学校が、日本語教育の必要な児童が多く通う学校だったので、そういう学校の授業の仕方など大変勉強になった。自分の予定の都合で4時間目まで行っていました、給食やそうじの指導も見えたかったです。
教育実習前に学校現場を見ることができた、大変貴重な活動でした。1つのクラスに入っていたので、たくさんかかわることができてとても楽しかったです。

大学と活動先が遠いと、1回3時間は多いと思う。水曜日の午後からはサークルがあるため。
非常にいい経験をさせてもらったと思う。もし教員になりたいなら、絶対に参加するべきだと思う。
週1回の活動では、日々の子供たちの様子がわからないので、毎週子供たちの変化に適切に最初することが難しいと感じました。私は最初校長先生との面談で、水曜日の午前中いっぱい（給食を含めて）をお願いされました。3時間、週1回で活動しても学校側は対応に困るのではないかと感じました。来年も時間割の調整ができるようにしてもらいたいです。学生の意欲を考慮すると、必修にするのはどうかと思います。
他大学では、単位の出るボランティアと出ないボランティアのうち、学校との良好な関係を築けるように、単位の出ないボランティアを推奨しているという話を聞いた。今回の活動では、小学校から助かるなどの言葉はいただけたが「単位が出るんだもんね」「単位のために3h×13回はやらないといけないもんね」ということを多く言われ、単位の出る授業として一貫してやるのもどうなのだろうかとおもった（続けようと申し出たが、今回はこれで単位が出るからまた来年のような感じで言われた）貴重な体験で良いことはたくさんあったが、小学校側と学生の相互の理解によってもっとよくなるのではないかと感じた。
2年生で現場に出て子供とかかわる機会はないので、今回経験して得られたことを生かして今後の活動を充実したものにしていきたいです。
実習前に現場に入れたのはよい経験でした。学校によって負担が違いすぎるかなと思います。
大変貴重な経験となりました。ありがとうございました。活動先の学校にも本当に感謝しています。
サポート活動を通して、特別支援の子供たちと多く接する機会が増え、そのような子供たちが大人になった時のために、いろんなことを考えて、愛情をたくさん注いで、一人で生きていけるような大人になれるようなサポートや、そういうお仕事がしたいと思うようになりました。また実際の現場で先生方の授業を見て、感じることは貴重な経験になり、とても勉強になりました。ありがとうございました。
今回の活動先はとてもいいところで、来年度もそのままやってほしいとお願いされたのでやりたいです。
保健室での活動を自分で見つけることは大変だったので、学校側から活動先を紹介してもらえるし、有意義な活動でした。また少し遠くから通学しているので、授業の空き時間などに活動を行うことはむずかしかったですが、大学の授業がない上での活動だったので、1日活動できて良かったです。
回数、時間数の設定が職員の方の中でも曖昧だった。保健室での活動もしてみたかった。
今まであまり先生から見た学校での生活は正直想像もできず、わからないまま実習を行うと思うと不安でした。しかし、今回の活動で学校内の雰囲気を実感でき、子どもたちと関わることができました。サポート活動を通して、もう少し積極的に関わったり話し方を工夫するなど、課題等も見えたり、子どもたちとふれあうことが楽しかったです。そのようなことがわかったため、今回のサポート活動があって良かったと思いました。
とにかく「楽しかった」という気持ちが強いです。そしてそれと同時に「教員に絶対なってやる」という気持ちが強くなりました。意見改善をあげるとするなら、実際はかなり難しいかもしれませんが、水曜日しか活動できない大学のカリキュラムを改善して欲しいです。パンフレットには空きコマを利用できる、とあるのですが、水曜日以外の空きコマはほとんど活動できないです。これが改善できれば、週2回は行けると思う。
この活動を経て、自分が大人として、社会人として、教師として、人間性が不十分であると感じた。本当に教師になるためにもっと自分の生活や意識を変えるきっかけとなりました。
中学時代の先生が2人いたのでとても気楽になれた。知らない人だけの場所に行くよりは、そういった場所に行けるようにした方がいい。
活動に関するレポートは、事後指導当日またはその付近にした方がいいと思う。早すぎると、提出後の活動内容がかけず、中途半端なレポートになる。また、書ける内容が少ない可能性がある。
自らボランティア先を探して活動しました。昨年から活動していましたが、今回単位化されるということだったので「学校サポート活動Ⅰ」としてやりました。しかし、やはり「単位のための」ボランティア活動という気がしてあまりいい気分ではありませんでした。活動先を提供してくれるのは、自分でボランティアを探せない学生にとって嬉しいことだとは思いますが、単位にするのはどうかと少し違和感を感じます。活動自体は、勉強になりとても楽しかったです。
学校側はサポート活動という活動に、何を当てはめたら良いかわからず戸惑っているような雰囲気を感じた。本当に支援を必要としている学校にだけ協力を依頼するべき。
母校に行きたかった。
大学全体の取り組みとして、水曜日午前の授業としてサポート活動が入ったことにより、活動に参加しやすかったです。また教育実習の前に、学校現場に入ることができたため、今の中学生の様子を早く知ることができたと思います。そのため、教育実習の時に生徒と関わっていくことに対する不安が少し小さくなったと思います。
子どもとふれあう機会があり、表情を見れた。やる気の具合がよくわかった。
地元（一宮）でやるとなると、水曜1、2限では時間の確保が難しく、金曜に行くことになった。それも3時間目までしかいれず、給食や部活には参加できなかった。通っている人も大学の近くでやれるといいと思う。
授業だけでなく、給食や清掃活動、行事にも参加させていただき、大学では学べない貴重な経験をすることができました。
教育実習前に今回のような現場での体験ができて、とても有意義でした。

私は中学校に赴いた国語専攻の学生です。国語を専攻しているが故に、国語の授業ばかり参加していました。しかし先輩から、「理数系のほうが困っている生徒が多いからそっちに行った方がいいよ。」とのアドバイスを頂いて、行くようにしたらとても喜ばれました。事前ガイダンスの際に、文系の学生でも理数系の授業に積極的にいった方がいい、というアドバイスを伝えてあげてください。
活動内容の指定が漠然としてお互い困った。
受け入れ先の学校に、自分にやらせる仕事が少ないにもかかわらず1日お世話になっているので、たまに申し訳なく思ってしまう。大学側からもう少し、やらせることができる仕事の例を送って欲しい。また、それぞれの受け入れ先同士の情報交換があまりされてない気がした。
私たちは見学者でもないし、教育実習でもないの、どの程度関わっていけば良いのかわからなくて困ったし苦しかった。
サポート活動先の学校も、私自身も、学校サポート活動の内容がいまいち分からないままでのスタートでとても不安であった。元々そのような活動を行っていた学校の話を知ると、活動内容がきちんと決まっていスムーズにできたと言っていたので、そのようなところと比べると大変だなと感じた。今年度からの試みであり、まだまだ手探りな活動ではあるのだが、もう少し、活動先に説明をして欲しかったと感じた。活動先では、今でもボランティアとして活動しているので、そのような機会ができたのはとても良かったと思う。
教師として子どもたちに心がけることを、少しでも学べたから良かった。
学校(活動先)のかたに学校サポート活動の概要が伝わっておらず、互いによく分からない状況で活動が始まってしまった。改善して欲しい。
とても充実していたので、1年の時からもっと宣伝をして欲しい。
サポート活動先と自宅からの距離があまりにも遠すぎた知合いがいました。
配属先によって1回の活動時間が異なる点が問題だと思った。(自分の意思ではありますが)私は1回につき6時間ほど活動していたが、それが1回につき3時間の活動×13回と同じ扱いになるのはどうかと思った。また、学校側も毎日何をしてもらおう、という感じだったので、内容を明確に定めるべきだと思った。実際に授業を見たり、子どもたちと関わったりできたのは大変良い機会になったと思う。
活動先によって得られる経験が違うと思うので、活動先を変えてまたやりたい。
活動先も活動する方も何をすればいいか、明確に理解しきれなかった。
サポート活動の代わりの授業についての説明が少なく内容が分からなかった。
小学校での子どもの様子が知りたいと思い参加しましたが、学習支援事業で、学校での様子は見れませんでした。しかし、実際に子どもと接し、教員になりたいという気持ちが強くなりました。きちんと子どもと話せるか、教えられるか不安でしたが、自信になったと思います。
生活保護受給世帯の支援の授業を教えて欲しい。前で話した人たちも、小学校に行ってた子ばかりで、こういう活動もあるのに、学校に通うことがいいみたいな感じで少しさみしかった。
活動先でどのようなことが体験できるのか分からなかったの、不安であった。人によって、活動内容が大きく違うのでやりたいことと、全く違うことをした人もいるので、ある程度内容を知りたいと思った。しかし、活動によって得られることが大きく違うのでいろいろな活動をしてみたいと思った。今回は、取り出し支援のボランティアだったので、次回はクラスでの子どもを見てみたいので、小学校や保育園に行ってみようと思った。とてもいい体験でした。
サポート活動先の先生がとても親切で、子どもたちもとても可愛く、毎週水曜日が楽しみでした。いろいろな障害の子どもと関わったり、リアルな授業を見ることができたり、座学だけでは学べないことを経験することができました。将来教員になりたいという意欲が高まりました。
学校に行っていたわけではないので、「子ども理解」に関しては何も言えない。子どもと関わっていても、生徒によって差が激しく、学生の立場でどう関わっていけばいいのかわからなかった。
愛教ではじめての取り組みということで、どのような準備をすればいいのかわからなかった。活動先(インターン)からの連絡が遅くなり、規定の回数行いうのに苦労した。
ネームプレート等を大学側から支給している大学もあったので、本校でも行ってほしいと感じた。
実際の現場に行く事で、これからの大学でどんなことを意識して学んでいくべきかわかったのがよかった。指導案作成などにおいても参考になる部分が多かった。
実際に子供たちとかかわりながら単位をとれるなんて、自分にとっては夢のようなプログラムでした。ぜひ、3年制移行でも実施していただくと、とても嬉しいです。相手先の先生方も、とても親切な方ばかりで、大変お世話になり勉強させていただきました。
活動を行う前は不安なことも多かったのですが、初めて先生と呼ばれドキドキし、子供たちと楽しい時間を過ごすことができました。
今回のサポート活動を通して、自分の将来につながる多くのことを学んだ。実際、自分の体で現場の雰囲気を味わえたのはとても良い経験であった。先生方に積極的に質問をして吸収できることを吸収したりした。これが今後の自分にとってプラスになることは間違いないだろう。この活動が無駄にしないように、これからがんばりたい。

資料 9

アンケートの目的は、愛知教育大学「学校サポート活動Ⅰ」の到達目標および成果を、より明確にするための基礎資料とするものです。ご回答の内容については、他の目的に使用するなどご迷惑をお掛けすることはありません。

平成28年度 愛知教育大学「学校サポート活動Ⅰ」アンケート 【学生用】(不参加)

記入者の所属について課程に○を付け選修・専攻を記入してください。

・所屬（ 初等 ・ 中等【 選修・専攻】 ・ 特別支援 ・ 養護教諭）

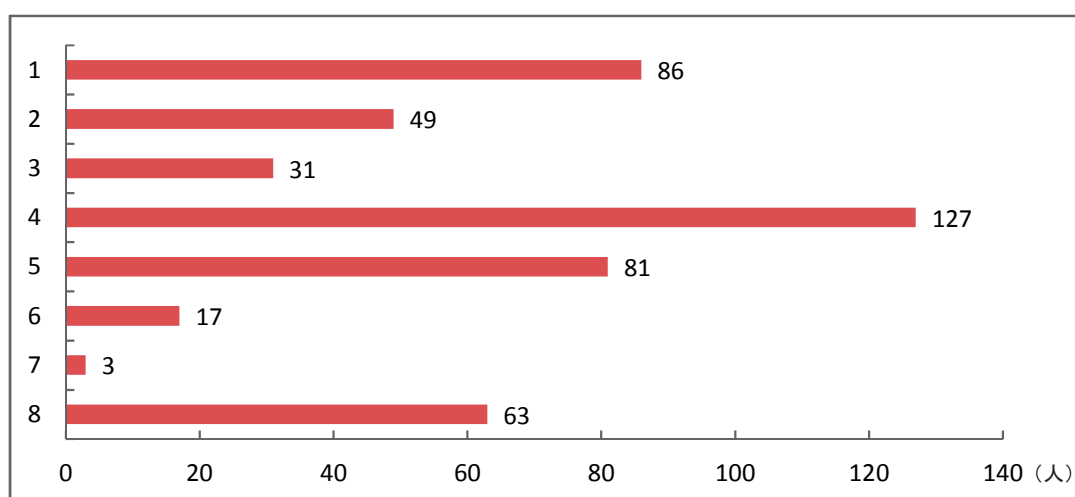
I 今回の「サポート活動Ⅰ」に参加しなかった理由について番号でお答えください。(複数回答可)

1. 学校サポート活動自体をしたいとは思わなかった。
2. 教員になるつもりがないため参加しなかった。
3. 教育施設等で、ボランティアで活動しており、単位として認められなくてもよいと思った。
4. 水曜日の午後に大学の部活動・サークル活動に参加しようとする、活動の開始時刻に間に合わないおそれがあるため、サポート活動には参加しなかった。
5. 他の選択科目で単位が取れるため、サポート活動には参加しなかった。
6. 高等学校での活動を希望したが、母校や居住地の近隣のところでは活動先が見つからなかったため、サポート活動には参加しなかった。
7. 養護教諭の活動を希望したが、母校や居住地の近隣のところでは活動先が見つからなかったため、サポート活動には参加しなかった。
8. その他（ ）

番 号								
その他	具体的に記入してください。							

I 今回の「サポート活動Ⅰ」に参加しなかった理由について番号でお答えください。(複数回答可)

1. 学校サポート活動自体をしたいとは思わなかった。
2. 教員になるつもりがないため参加しなかった。
3. 教育施設等で、ボランティアで活動しており、単位として認められなくてもよいと思った。
4. 水曜日の午後に大学の部活動・サークル活動に参加しようすると、活動の開始時刻に間に合わなくなるおそれがあるため、サポート活動には参加しなかった。
5. 他の選択科目で単位が取れるため、サポート活動には参加しなかった。
6. 高等学校での活動を希望したが、母校や居住地の近隣のところでは活動先が見つからなかったため、サポート活動には参加しなかった。
7. 養護教諭の活動を希望したが、母校や居住地の近隣のところでは活動先が見つからなかったため、サポート活動には参加しなかった。
8. その他



8. その他

※抜粋

サポート活動の仕組みがよくわからない。ほかの科目で単位が取れるというが、どの科目の代わりがよくわからない。下宿のため、配属先によっては交通費が高い。
高校でボランティア活動を3年間していたので特にやろうとは思わなかった。
自由に使える時間が少なく、ほかの講義に影響が出ると考えたため。
事前指導が火曜日で、その日が無理なら別の火曜日でした。火曜日はどうしても抜けられない事情があった。責任があった。予備日の曜日を変えることができるのならば、これからはそうしてほしい。
将来養護教諭を希望しており、担任教諭としての経験をしたいと思わなかった。
教員になるつもりがなかったので、ボランティアをしなくてもいいかなと思いました。でも今は、前より教員になろうかなと思っているので、参加したほうがよかったかなと思いました。
1年後期に地元である岐阜に毎週帰って、保健室でボランティアとして活動させていただいたため、単位としてとるボランティアは違うかな、と思ったのと、もやっとした、という気持ちからやらなかった。まったく知らない学校に行くのは不安。
気づいたら締め切りが過ぎていた、すごくしたかった。
自分のやりたい内容のボランティアを居住地の近隣で探そうと思ったため。
来年します。

アンケートの目的は、愛知教育大学「学校サポート活動Ⅰ」の到達目標および成果を、より明確にするための基礎資料とするものです。ご回答の内容については、他の目的に使用するなどご迷惑をお掛けすることはありません。

記入者の教育委員会（部局等）名について記入してください。

- I 今回のサポート活動は、学校（施設）等や子どもの支援に役立ったと思いますか。【 】
1. 大いにそう思う 2. ある程度そう思う 3. あまりそう思わない 4. 全くそう思わない
- II 今回のサポート活動は、貴教育委員会（部局等）にとって意義のあるものになったと思いますか。【 】
1. 大いにそう思う 2. ある程度そう思う 3. あまりそう思わない 4. 全くそう思わない
- III 今回のサポート活動で、週1回程度という頻度についてどのように思いますか。【 】
1. 多いと思う 2. 適度である 3. 少ないと思う
- IV 今回のサポート活動で、1回3時間以上という時間数についてどのように思いますか。【 】
1. 多いと思う 2. 適度である 3. 少ないと思う
- V 今回のサポート活動で、13回以上という回数についてどのように思いますか。【 】
1. 多いと思う 2. 適度である 3. 少ないと思う
- VI 今回のサポート活動は、学生の子ども理解や教育活動理解を深め実践的指導力の向上を目指す上で、役立ったと思いますか。【 】
1. 大いにそう思う 2. ある程度そう思う 3. あまりそう思わない 4. 全くそう思わない
- VII 今回のサポート活動は、学生の教職への意欲を高めることに役立ったと思いますか。【 】
1. 大いにそう思う 2. ある程度そう思う 3. あまりそう思わない 4. 全くそう思わない
- VIII 今回のサポート活動についての改善点、ご意見、ご感想などがありましたらお書きください。

- Ⅱ 今回のサポート活動は、貴教育委員会（部局等）にとって意義のあるものになったと思いますか。
- 【 】
1. 大いにそう思う 2. ある程度そう思う 3. あまりそう思わない 4. 全くそう思わない

- Ⅲ 今回のサポート活動で、週1回程度という頻度についてどのように思いますか。 【 】
1. 多いと思う 2. 適度である 3. 少ないと思う

- IV 今回のサポート活動で、1回3時間以上という時間数についてどのように思いますか。【 】
1. 多いと思う 2. 適度である 3. 少ないと思う

- V 今回のサポート活動で、13回以上という回数についてどのように思いますか。 【 】
1. 多いと思う 2. 適度である 3. 少ないと思う

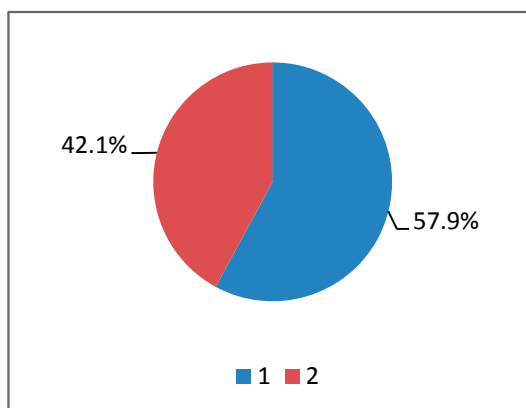
- Ⅵ 今回のサポート活動は、学生の子ども理解や教育活動理解を深め実践的指導力の向上を目指す上で、役立ったと思いますか。 【 】
1. 大いにそう思う 2. ある程度そう思う 3. あまりそう思わない 4. 全くそう思わない

- VII 今回のサポート活動は、学生の教職への意欲を高めることに役立ったと思いますか。【 】
1. 大いにそう思う 2. ある程度そう思う 3. あまりそう思わない 4. 全くそう思わない

VIII 今回のサポート活動についての改善点、ご意見、ご感想などがありましたらお書きください。

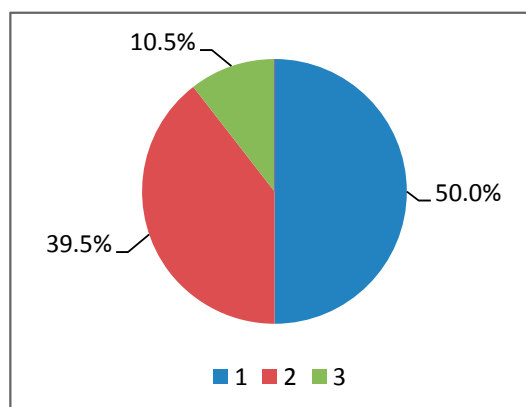
I 今回のサポート活動は、学校(施設)等や子どもの支援に役立ったと思いますか。

1. 大いにそう思う	22
2. ある程度そう思う	16
3. あまりそう思わない	0
4. 全くそう思わない	0



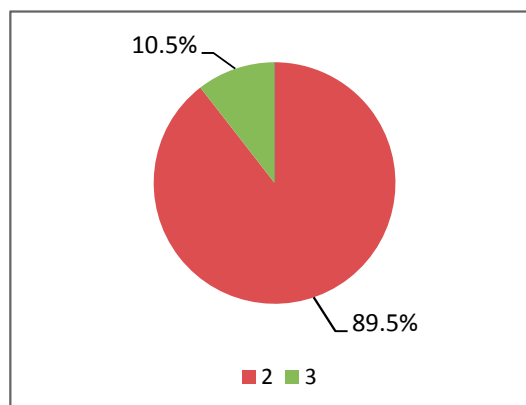
II 今回のサポート活動は、貴教育委員会(部局等)にとって意義のあるものになったと思いますか。

1. 大いにそう思う	19
2. ある程度そう思う	15
3. あまりそう思わない	4
4. 全くそう思わない	0



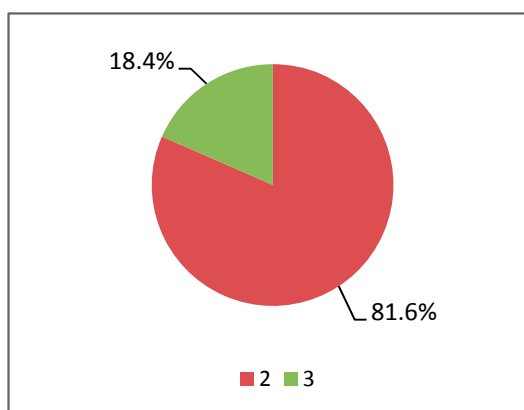
III 今回のサポート活動で、週1回程度という頻度についてどのように思いますか。

1. 多いと思う	0
2. 適度である	34
3. 少ないと思う	4



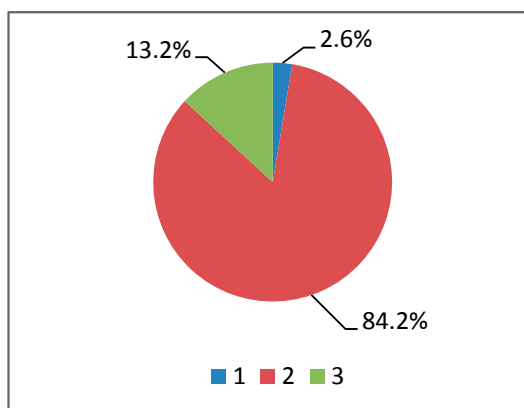
IV 今回のサポート活動で、1回3時間以上という時間数についてどのように思いますか。

- | | |
|-----------|----|
| 1. 多いと思う | 0 |
| 2. 適度である | 31 |
| 3. 少ないと思う | 7 |



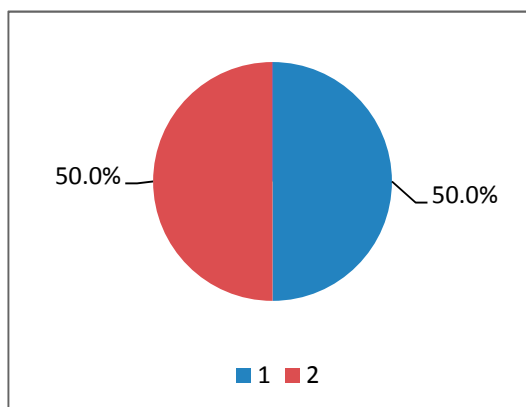
V 今回のサポート活動で、13回以上という回数についてどのように思いますか。

- | | |
|-----------|----|
| 1. 多いと思う | 1 |
| 2. 適度である | 32 |
| 3. 少ないと思う | 5 |



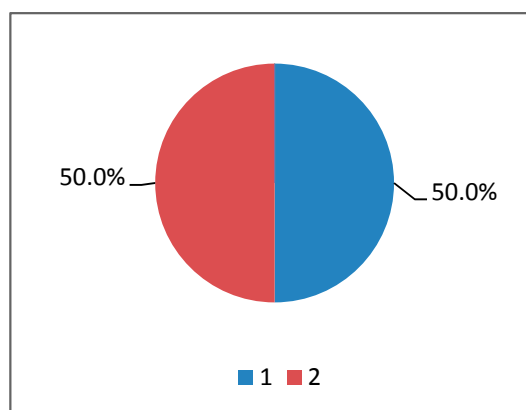
VI 今回のサポート活動は、学生の子ども理解や教育活動理解を深め実践的指導力の向上を目指す上で、役立ったと思いますか。

- | | |
|--------------|----|
| 1. 大いにそう思う | 19 |
| 2. ある程度そう思う | 19 |
| 3. あまりそう思わない | 0 |
| 4. 全くそう思わない | 0 |



Ⅶ 今回のサポート活動は、学生の教職への意欲を高めることに役立ったと思いますか。

- | | |
|--------------|----|
| 1. 大いにそう思う | 19 |
| 2. ある程度そう思う | 19 |
| 3. あまりそう思わない | 0 |
| 4. 全くそう思わない | 0 |



Ⅷ 今回のサポート活動についての改善点、ご意見、ご感想などがありましたらお書きください。

市内および近隣の学生を今後も積極的に受け入れていきたい。活動回数や時間については、適当だと思うとしたが、もっと増やしてほしい。この取り組みを今後も継続してほしい。
私学系の教育学部では、同様の取り組みを積極的に進めている。愛教大の学生にも、同様の機会が与えられることは大変有意義である。教育実習では得られない知見も得られると思う。学生の進路選択の指針の一つになることを願う。
事前登校の打ち合わせなどで、実習校に初めて学生を行かせるときに、学生が実習校に向けて何も持参していなかった。大学名の封筒に「活動の要項」や「学長か学部長名の依頼文」などを持参させたほうがよかったのではないかな。(本年度は市教委に事前にいただいたもので用意し、学生に持たせた。)校長からも「大学からの依頼文は何もないのか」という意見もあった。次年度からの配慮を願いたい。実習時間について、学生によって希望する曜日や時間帯が違うのは混乱する。何曜日の勤務時間開始から何時間目終了まで、と統一していただけると助かる。
学生への事前指導を十二分に行ってほしい。
本市ではすでに大学を問わず取り組んでいる活動であるため、本市教育委員会としての意義を問われるならば、学校サポート活動の意義はあまり、まったく感じないものである。特に大学からの「サポート」を感じることはなかった。依頼事務はあった。
受け入れ校から、学生が大変意欲的に取り組んでおりその姿勢に対して高い評価を聞いている。本市特別支援学級交流会において、ゲーム交流コーナーを担当し、学生同士で協力し準備・運営を行い、会を盛り上げてくれた。担当者から大変助かったと聞いている。
素晴らしい取り組みが始まったと思う。地元出身の学生が地元に貢献し、地元の学校も教採へのサポートをするなどお互いがwinwinの関係で定着してほしい。市教委の窓口になってくださった、玉田先生が存在が大きい。今後もコーディネーターを軸に連携が取れればありがたい。
将来教職を目指す学生がこのような活動をすることは大変有意義である。また学校現場も助かる。どちらにとっても有意義な活動となるようにしていきたい。
サポートをするためという活動だったが、養成校の実習期間と重なることもあり、配属園を決めることに困難があった。実習かボランティアかのとらえ方が難しい。
本市では今年2名の学生を受け入れているが、市内ほとんどの学校が配置希望を出してきたため、まだまだ受け入れが可能である。本市以外の学生でも、通うことができれば大丈夫ですので、ぜひご相談を頂ければありがたいです。
放課後子ども教室では、6月～翌年3月の授業日に週2回、2.5時間の勤務をしていただくことが可能であるが、学生の大学での授業等の予定もあり、単位取得に必要な時間数を「放課後子ども」のみで活動していただくのが難しい場合があります。
(実施について)玉田先生を中心に非常に丁寧に準備、運営していただき感謝しております。学生の選定、割振りまでしていただきスムーズな運営ができた。教育実習前の学生とのことで心配したが、事前指導を徹底していただいたおかげで大きなトラブルもなく実施できている。ただ一部で、「休みが多い」「休みの連絡が遅い」「だらしない服装」がみられるという声もある。学生個人の意識の問題が大きいと思う。(学校での活動について)担当教員との事前・事後の打ち合わせ時間が取れないのが課題。学生にとっても有意義なものにするため、工夫すべき点であると感じる。学校を訪問する時間が決められているため担当学級の時間割との兼ね合いが難しい。十分な関わり合いができない場合もあったが、年度初めに決めることができないために解消は難しいと考える。学校側で受け入れる学級の選定時などに配慮していきたい。特別支援学級に入っていた学校では、大変効果的に実施できたと聞いている。授業だけでなく、放課や給食、清掃などの活動にいっしょに参加してもらえたので子どもとの関係が深まったとの声もある。(その他)学校の受け入れは「3名」が適当・上限であるという声が多くあった。学生によっては決められた3時間以上に活動してくれた方もいた。学校と相談の上、弾力的に運用できると学生・学校ともに有効な活動になっていくと感じた。

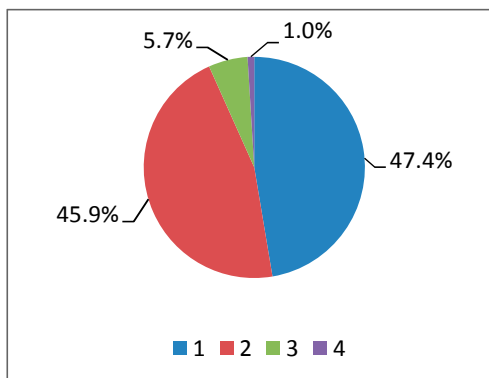
支援は上手に行っているが、サポート活動に対する意識の低さを感じる事が少し見受けられた。
受け入れ幼稚園・保育園に限度があり、学生が通える範囲を考えると受け入れが難しい状況も生じる可能性がある。
教育実習と異なり、長期にわたって子供と接する機会としてよいと思う。学生の教職を目指す志が高まれば幸いです。
サポート活動受け入れ校と教育実習受け入れ校、1人の学生にとって同じほうが望ましいか、別にするほうがよいか、大学としてはどう考えますか？
大学2年生のサポート活動ということで、教育実習を経験していないため、学生への指導も必要であったと聞いている。サポート活動なので仕方ないところもあるが、見ているだけになってしまうこともあったそうです。学生がどこまで活動するのか、今後の課題となっていくと思う。大学―教委―学校との連携が今後必要となると思う。
支援が必要な児童が多くいるので、サポートしていただけてありがたい。子どもたちも毎週来てくれることを楽しみにしています。
就職してから負担感・不安が少しでも軽減されることと思います。実習とは違った学びもあると思う。幼稚園はクラス減又は保育園機能変えて減少傾向にあり、円への負担も少なく実施できるというより、助けていただけたと思う。
どの学生さんも一生懸命に活動してくださり、感謝しています。今後も継続していただきますようお願いします。
すべての学校でとても良い活動であるとの声を聞いた。学校にはいろいろな子供がいることを知ってもらい、そのうえで大学の勉強をし、強い意志を持って教職を目指してほしい。そのために、サポート活動はとても良い活動である。教育実習は研究授業に重きがあり、教科指導を学ぶための実習という色が濃くなってしまふ。それに対して、学校サポート活動はいろいろな先生の授業を見たり、時には特別支援学級の子どもの支援を体験したりと、大きなプレッシャーもなく体験を広げ、じっくり取り組むことができる。子どもたちも、学生が来るのを毎週楽しみにしている。今回受け入れた学生に対する評価は大変良く、活動の目的を理解し、謙虚な姿勢でどのようなことにも取り組んでくれるとの声が多くあった。また、本市では地元私立大学の学生インターンシップで、多くの学生が主に小学校に入っている。そちらは完全なボランティアで、愛教大の単位取得としての活動とは違う。愛教大の学校サポートのメリットは「毎週、同じ時間に確実に来てもらえるので計画が立てやすく、事前に各先生からの声を聞き、どの学級に入ってもらおうか考えることができる」とのこと。他大学は、授業をやりくりしながら時間を空けて、その時間に小学校へ行くので決まった時間に行くのが難しいとのこと。しかし、中には完全なボランティアの学生を応援する声があるのも事実。単位として認定する以上、認定者である大学がどのように活動状況を把握するのかという視点も必要ではないかと厳しい声も聞いている。この点については、学校現場からの聞き取り、活動状況の観察等も含めご意向をいただき、受け入れ側である学校の理解と協力がより強いものになるかと思う。本市教育委員会としては、学校サポート活動がこれからの人材育成、学校の支援として大変有意義なものであると認識しております。今後ますます充実したものとなるように、ご協力させていただきたい。
教育実習と違い、気楽に受け入れることのできる良さがある。今回参加した学生は、全員前向きに取り組む学校も助かり、学生にとって有意義な時間になったと聞いている。教職についてすぐに不適應を起こすものが多くなっている現状を考えると、価値のある活動であると思われる。
学校現場の声を聞くと、今回受け入れた学生は意欲的でよかったとのことである。基本的に教職を目指す学生であれば受け入れることに問題はないし、逆に慣れてくれば担任のサポート的な動きもできてくるので良いと考えている。しかし教職を目指す気持ちが弱く、単位のためだけの実習という感覚で来る学生がいたりすると、現場としてはあまり快く思えない。今後、本事業を必修にしていく上では、心構えや気持ちの持ち方などの事前指導も大切であると考え。
現場実習に行く前に児童や教職員とコミュニケーションを持ち活動できることは意義がある。学校現場は大変助かっていると聞いている。
学生の教職への意欲を高めるかどうかという質問については、意欲を高めることも、また、その逆もあると思うが、いずれにせよ現場の実態がよくわかるという点において効果的な活動であると考え。
子どもの出席状況によって、学生に待機時間ができてしまったことが申し訳なかった。「地域未来塾」自体がスタートしたばかりの手探り状態の中、学生の皆さんの力は大いに役立った。利用生徒も増えてきており、地域未来塾事業は次年度も継続予定です。学生への同事業の周知において引き続き協力をお願いしたい。
学校からも大変助かっているという声を聞いている。今後も大学での事前指導(留意事項など)をしっかりと行っただき、学生にとっても、学校・子供たちにとっても、よい機会になるようお願いします。
学生自身が教育現場で実際に教育に携わること、学校現場の中に入って教員と交流することに意義があると考えています。自身の適性を考えることができるのではないかと思いますので、今後もぜひ事業を実施してください。

活動先からのアンケート結果

【回答数209件】

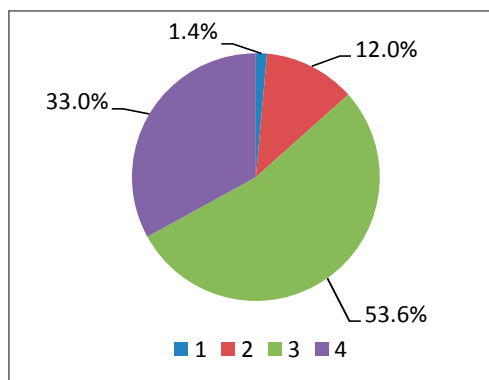
I 今回のサポート活動は、学校(施設)等や子どもの支援に役立ったと思いますか。

1. 大いにそう思う	99
2. ある程度そう思う	96
3. あまりそう思わない	12
4. 全くそう思わない	2



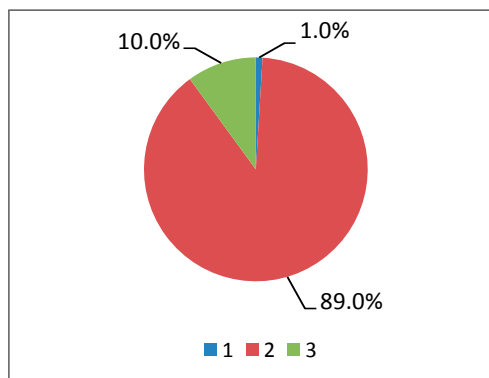
II 今回のサポート活動は、学校(施設)等の負担になったと思いますか。

1. 大いにそう思う	3
2. ある程度そう思う	25
3. あまりそう思わない	112
4. 全くそう思わない	69



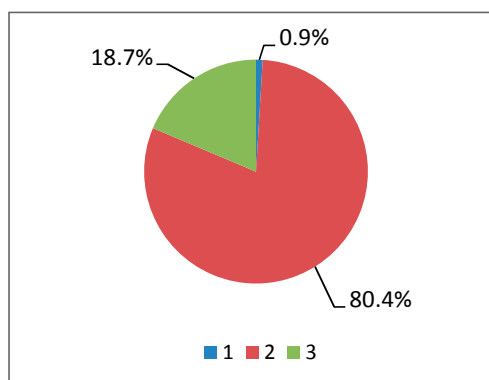
III 今回のサポート活動で、週1回程度という頻度についてどのように思いますか。

1. 多いと思う	2
2. 適度である	186
3. 少ないと思う	21



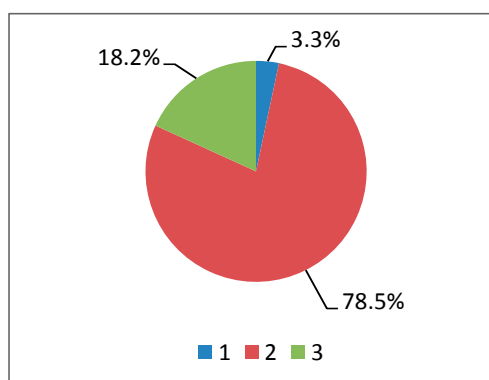
IV 今回のサポート活動で、1回3時間以上という時間数についてどのように思いますか。

1. 多いと思う	2
2. 適度である	168
3. 少ないと思う	39



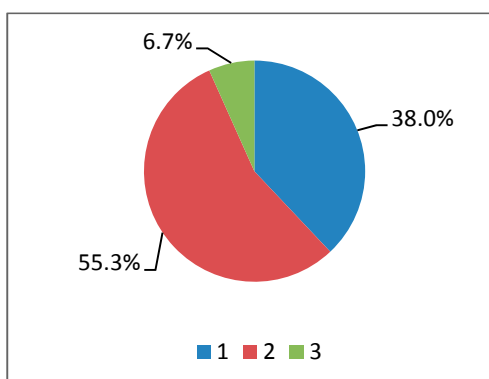
V 今回のサポート活動で、13回以上という回数についてどのように思いますか。

1. 多いと思う	7
2. 適度である	164
3. 少ないと思う	38

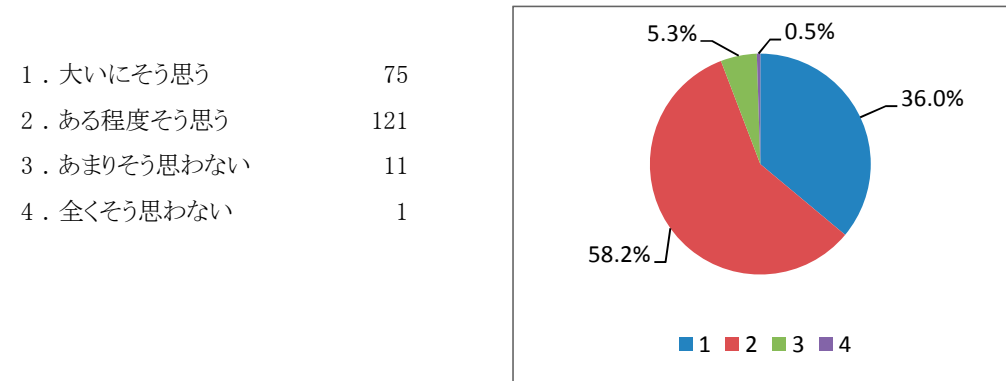


VI 今回のサポート活動は、学生の子ども理解や教育活動理解を深め実践的指導力の向上を目指す上で、役立ったと思いますか。

1. 大いにそう思う	79
2. ある程度そう思う	115
3. あまりそう思わない	14
4. 全くそう思わない	0



Ⅶ 今回のサポート活動は、学生の教職への意欲を高めることに役立ったと思いますか。



Ⅷ 今回のサポート活動についての改善点、ご意見、ご感想などがありましたらお書きください。

※抜粋

今回の評価については学生の問題でなく、本校の受け入れ体制の問題です。初めてのことで、学生の希望を十分に受け止めることができず、参加した学生の意欲を高めたり、指導力の向上を目指す上で十分とは言えませんでした。参加した学生は熱心で誠実に、学校の活動に取り組んでくれました。
とてもまじめに、熱心に子供たちに関わっている。時間的な理由から、保育の内容やその日の保育の狙いなどをきちんと伝える時間がないので残念。今後もその時間を確保することは難しい。園として学生が来ることによる負担は感じていない。
一日落ち着いて活動に取り組んでもらえるよう、一日の活動時間を延ばしていただきたい。
互いのプラスになると感じている。本校にサポート活動のために来校している学生は、前向きな中でも笑顔で活動し、児童からの信頼も日増しに高まっている。時間や日数についても、できる範囲で来ていただいている。「来年度も活動したい」と言っている反面、「来年度は、授業からすると無理」とも聞いている。3年生の学生がサポート活動に参加しやすくなる配慮を頂けると、大変ありがたい。
教育実習のように活動(学習支援)のマニュアルがなく、学校の裁量で行うことが多く、担任の先生が学生を上手に使いこなせていないのが現状です。本校では個別支援を中心に丸付けなどの授業サポートを行っていただきましたが、学生を十分に活用しきれていないように思われます。教育実習のようなマニュアル作成と事前指導をお願いできればと思います。
大変熱心に活動していただきました。ありがとうございます。
早い段階で現場の様子を知ることは、今後の大学での学びにおいても、大いに役立つものと考えます。その意味で、2年生での学校サポート活動は、意義があると思います。
本人にとっては素晴らしい活動である。学校にとってはこれまでにない仕事の一つ増えるので負担になる要因の一つである。学生にとっては良い機会だと思うので、両方の負担にならない程度であればとても良い取り組みだと思う。
学校現場の現状は教育実習だけではつかめないもので、プラスαの実習として取り入れることは有効であると思います。
教職を目指す学生が学校現場の実情を知るための良い機会となる。大変良い試みであると思う。
学生さんのお役に立っているかどうかはわからないが、本校としては家庭科の実習のお手伝いだけで大変助かりました。
学生の都合により来校日を決定するというやり方ではなくて、教育実習のように一定の期間を設定して実施していただけたらよいと思いました(給食を注文したり、しなかったりして確認する手間がかかったため)できれば一日の時間数も決めていただけたらよい。
今回学生の都合により期日変更を行った。事前に期日の調整をしっかりと行うべきである。都合が悪くなった場合は、欠席でよいと考える。(変更日数2日間)
今年度本校に来ていただいた学生さんは大変意欲があり、態度も非常に良かったので、学校としても戦力になり、大いに助けられました。本当に感謝しています。しかし、すべての学生さんが彼のように意欲があるとは限らないので、どのような学生さんでも今後受け入れられるとは言えません。サポーターとして来ていただける方は、ぜひやる気と態度が十分な方のみでお願いしたいです。
増派遣を希望します。とても良い学生さんと巡り合うことができ学校は助かっています。
学生にどのような活動をさせたいのか、サポート活動をすることで学生に何を学んでほしいのか、という大学側の意図も受け入れ校に伝えてほしい。そうすることで、アンケートのⅥやⅦに関することにも協力できることが増えていくように思う。
必須だからやる生徒も中にはいると感じる。本当にやりたくて来る学生とは取り組みに差がある。

本校に来ていただいた学生さんは素晴らしい教師になると思います。採用試験に合格したら、ぜひとも新任として本校に赴任していただきたいと思います。
学校現場でのサポート活動は社会人の一員として取り組むことと共に学校で学ぶことができるという指導を改めてお願いしたいです。学校現場で活動できる貴重な体験が学生自身の良い経験になるよう「自発的に取り組む」「できる限り長い時間学校で活動する」ということも指導していただきたい。ちなみに今日は午前中のみの活動だったので、午後もあると様々なことが学生さんもっと学ぶことができたと思いました。
給食、掃除なども大切な学校における活動です。午前中3時間のサポートということでこちらに関わることができずに申し訳なく思っています。曜日が限定されるために、本人が望んでいた高学年体育の授業をなかなかあてはめることができず、申し訳ないと思います。大変優秀で、前途のある学生さんでした、ご活躍をお祈りいたします。
貴校の学生が来てくれるのを子供たちも楽しみにしています。また、そういった子供たちの反応が学生の皆さんにとってもプラスになるのではないかと思います。子供たちとの触れ合いの中で多くのことを学んでいただければ、そして今後社会で役立てていただけることを楽しみにしています。
週一回3時間ほどでは学生の子供理解や、教育活動理解につながらないので1日8時間ほどやるほうがよいと思いました。他の大学でもやっているの、他大学との調整・仕事の役割分担も難しくなってきた。
2年生の実施だと、まだ学生のアルバイト+αという感じがする。社会人として来ているという意識をもう少しつけてからがいい。
職員の不足しているところを助けていただきよかったです。回を重ねるごとに、児童の理解が進み、積極的に活動できていました。さらに長期間だとより効果が上がると思います。活動時間は児童の投稿から下校までに合わせるとありがたいです。今回の学生は大変優秀でしたが、人によりこちらの指導がより必要になることもあるかと思います。その場合は、大学からの指導をお願いしたいと思います。
優秀な学生さんでいろいろなことを手伝ってくれて助かっています。生徒にも積極的ににかかわってくれました。
学校行事の準備にも精力的に参加したり、子供たちに積極的ににかかわって話しかけたりする場面が数多くみられました。
本校は優秀な学生さんに来ていただき学校としても大変助かりました。学生のうちに実践体験を持つことは将来教職に就いた時に、大変役立つことと考えます。今後ともサポート活動を積極的に行っていただいたり、人数を増やしたりしていただければありがたいです。よろしく願いいたします。
日増しに学校にも慣れてくれて、授業以外にも学習環境掲示板の制作も手伝ってもらいました。ありがとうございました。
学校では午後に行事予定が多いので、現在のように午前中の(教科の)授業をサポートしてもらう時間帯がありがたいです。
学校の状況に合わせて、積極的にサポート活動を行っていただいております。大変助かっている。
学校を知る、現場を知るという目的ですが教育実習のようにある程度の課題がないと、担当した学校や本人に任される面が大きく、このサポート活動としての成果は測れないと感じています。それなのに、活動の継続と上積みを狙い「サポート活動Ⅱ」をするなら、ある程度の課題(選択でも)を与えたほうが、学生にとってもスムーズだと感じる。
回数や時間についての質問で、「適度である」と答えましたが、実際に3時間以上13回以上、とても熱心に行ってくれています。地元で校区ではないということで、近くから通ってもらいよかったです。学校でも地元の子を育てようという気持ちで対応できました。
学生さんには、子供理解を深めるとともに、支援の仕方などの学びにつながったのではないかと思います。大変熱心に取り組んでいただき、学校としても助かりました。1月以降もボランティアで活動したいという希望をうかがっております。
サポート活動が1回にとどまらず、2回やれるようなことができると学生の活動も充実するのではないのでしょうか。1回の経験は、2回目大きく生かせると思います。教職を目指すのであれば、実習という大きな経験の前に学校をある程度知り、児童との接し方を学んでおくとうよいと思います。
子供たちと上手に接して感謝している。大学の予定もあり、13日間を2学期中に行うのは難しかった。できれば期間を1〜2か月伸ばしてもらえと助かる。
行事のために参加できないこともあるので、実施期間にゆとりをもたせて計画していただけると助かります。
学生にとって現場を見て感じる良い機会になったのではないかと思います。一生懸命に取り組む学生でありがたかったです。
今回はほとんど特別支援学級に入ってくださいました。ありがとうございました。幼児教育課程ということなので、もう少し1、2年生の教室に入ってもらえばよかったかなと反省しています。
この活動に参加する学生が、活動の目的をしっかりと意識し参加できるよう事前研修を充実してほしい。また、学生が主体的に活動できるよう、活動スケジュールを学生から中学校に提案し、調節していく形にできないだろうか。
学校は授業だけでなく、放課・給食・掃除が大切な時間となっています。そういう時間に不在だったのは残念です。授業も後ろで立っているだけで参観のようでした。
9月から開始され、2学期の間継続してきてもらえたことがよかったです。子供たちも学生さんも慣れてきたところなので、本人の都合がつけば3学期も継続してもらいたいくらいです。子供の学習支援から、行事の手伝い、事務的な補助など内容が多岐にわたってしまったので、多忙感を持たせてしまったかもしれません。教職への意欲づけになったかは不安です。
学生に遠慮があったのか、生徒の中に入り活動というよりは観察のような感じを受けた。母校よりは母校以外での活動をしてください。兄弟親類がいます。サポート活動Ⅱにおいては、Iの活動校でない学校や小学校で経験を積ませて視野を広げさせてはと考える。

大学から指示されたサポート活動日のうち2回、ほかの授業(補講?)が入って来校できないとのことだった。大学の教育活動として、「サポート活動」を位置づけるのであれば予定された日にほかの授業のために参加できないというようなことがないようにしていただきたい。参加した学生さんの動機が「子供への接し方がわからないから体験を通して学びたい」というものであった。しかし、サポート活動中の様子を見ても、積極的に子供と関わろうという姿勢は認め辛かった。
今年度は3年生の学級(3クラス)に入って、子供たちと一緒に活動したり、授業の参加・観察もしてもらいました。本人の希望で、朝から給食までサポート活動をしてもらいました。子供たちとも仲良くなっていました。はじめと終わりのあいさつ、急な予定変更の際の連絡なども笑顔で丁寧に行い、とても好感のもてるサポーターでした。今後の学習意欲の向上や指導力の向上に少しでも役に立てれば幸いです。学校としても大変助かりました、ありがとうございます。
部活動があるため、午前中だけの活動であるのが残念である。できれば午後も活動してもらえると、児童にとっても学校にとっても、とてもありがたい。学校にとっても、とてもありがたい。でも、学生が部活に熱心に取り組むことも必要なので仕方ないですね。
養護教諭のサポート活動でしたが、本校では相談活動が多く、保健室に同席して観察するという場面が多くなりました。2年生ということで、まだ履修してない部分も多いため、執務についての説明に、多くの時間を使うことになりました。何を学びたいか、テーマを持ってきてくださるといいなと思いました。
学生が児童の諸活動に寄り添うなど、誠実に活動いただきよかったと思います。
本校は外国籍児童が多いため支援が可能な指導者が多いほど、学習や生活において細やかな対応ができると考えています。したがって、学生による学校サポート活動であっても助かる部分が多いのが事実です。ただ、学生によっては、自身が持つ指導のイメージとかなり異なるケースもあるでしょうから、学校と学生とのミスマッチが起こらないような工夫が必要かと考えます。
行事の練習等でのサポートがあり助かりました。複数の学年に携わることで、教職への意欲が高まったと考えます。
学生は大変意欲的に児童と関わり、授業に参加したりしていた。
本校でのサポート活動に参加した学生さんは授業のサポートのみならず、学校行事、特別支援教育、施設等環境整備、設備の修繕に至るまで、本当によく動いてサポートしてくれました。来年度のサポート活動Ⅱでも、久保さんを希望します。
水曜日の午前中だけでなく、午後からの授業や学校行事にも参観していただき、助かりました。今年度は理科選修の学生だということで、理科の授業でのサポートを中心にお願いしたかったのですが、時間割の都合で難しかったです。また、教育実習生のように配属学級を固定しなかったため、学級担任の仕事まで十分には学んでもらうことができませんでした。学級に配属することも、次年度は検討していきたいと思います。
学校や児童にも慣れているので、教育実習生の際の受け入れ先としてもご配慮いただけるとよいと思います。
教材・教員の整備や準備、授業中の支援等々を大変意欲的に行ってくれました。もし、ほかの教科の生徒だったら、どのような活動ができるのだろうと思うところはあります。教育実習にもまだいい学生にとっては良い経験ができる取り組みだと思います。
真面目な学生でしたが、自分でやることを見つけて活動しようという意欲に欠けました。その分指示をしなくてはならず、学校(教員)の負担となりました。十分に意欲を高めたうえで、取り組ませていただくと効果も大きくなると思います。
インターンシップとしての取り組みは、とても大切である。教職に就いてから、役に立つと思うし、即戦力になるとも考える。現場の教職員が苦労しているのは、指導案の作成・文書の作成など書き物、コミュニケーション不足から生じる人間関係の構築である。大学時代に多くの人と関わって、広い視野で物事を考えられる経験をしてほしい。
できれば可能な範囲で、毎日の活動である給食の時間を一緒に過ごすことができればなおよいと思います。
大変意欲的に取り組んでくださったので、こちらとしても良い刺激を頂きました。学生側に意欲と探究心があることが、本活動において最も大切なことだと思います。今後も本校に見えた学生のように意欲的な人材の育成と輩出をよろしく願います。
事前指導で、学生は「先生」という立場で活動に来る、という点を強調していただけるとありがたいです。
今回活動してくれた学生さんについては、一週間ごとに担当するクラスを変えて活動してもらっていたが、2限放課の20分間には低学年では運動場で子供と一緒に遊ぶ姿が見られたり、高学年では教室内で児童と楽しく会話したりととても積極的な取り組みであった。学習発表会前は、ピアノが上手ということでいろいろな学年から声がかかっていた。このような学生であれば、活動Ⅱも大歓迎です。
学生は意欲を持って誠実に取り組んでくれました。給食の有無の調整にひと手間かかりました。報告書についての点検・確認についての取り扱いの説明があるとありがたいところです。学校事情を踏まえて、教科のみならず事務・執務面においても体験および学ぶ機会を設定しました。教務課の方に問い合わせることで、スムーズな実施ができました。
教職を目指す学生が教育実習とは別に、実際の教育現場でサポート活動をすることは大変有意義であると思う。今後もどんどん体験を積ませてほしい。
一回3時間以上ということは、言い換えれば1回3時間行えばよいとも受け取れる。3時間で学校のサポートは難しい。学生、受け入れ校の両方にとって有効な方法を模索してもらいたい。現状では形だけのものになっていないか。
今回サポート活動に参加した学生は大変意欲的に学校教育に取り組むことができた。将来、教師を目指す気のある学生を育成するために、学校現場として協力できることは今後も引き受けたいと思います。
大変意欲的な態度で「学校サポート活動」に取り組んでいました。教育実習では体験できない授業以外の実践ができたと思います。
教員を目指して教育系の大学に入った学生だけあって、子供たちに対する目と話し方に優しさがある。来ていただいて、学校としてはありがたかった。教員免許状をまだ所持していない学生であるため、指導を任せる訳にもいかず、学生本人にはフラストレーションがあるかもしれない。(本校では、学級担任の指導補助として活動してもらった。)

教職志望の学生が、高い意識を持ってこの活動に取り組んでいたのも、双方にとって大変有益であったと思います。今後もぜひ継続されることを希望しております。
学生は朝放課から自主的に児童と触れ合って、意欲的に活動している。児童も、学生がサポートすることを楽しみにしている。反面学生と話す時間がなかなか取れないため、学生の考えや思いを十分聞くことができない。せっかくサポート活動をしてくださっているので、教員の仕事に対する思いが深まる機会になることを願っている。
大変助かりました。この良い活動をぜひ続けていってください。Ⅱもよろしく願います。人数や日数も増やしていただいて結構です。
サポート活動に来る学生が、事前にどの程度の指導を受け、どれくらいの意識を持っているのかを学校としてつかんでおきたい。
他校ではどのような活動をしているのか、またこの活動において学生がどんな思いを持っているのかについて情報を提供していただくと、学生に対してより良い支援ができると思います。本校で活動している学生さんは週1回の活動を終日3月まで参加を希望するなど意欲的に活動しています。
中学校技術科の学生に来ていただいたが、本校の技術科の教員は非常勤である。本校職員の出勤の曜日と、学校サポートの学生との曜日が合わず、技術の授業に関わってもらえないので、学生にとって残念だったと思う。
子供たちに寄り添いサポートしてくださるので、本人にとっても、学校によっても良いサポート活動であると思います。アンケートの結果は、配属された学生によって回答が大きく変わってくると思います。
子供たちや教員と心を通わせて充実した学校サポートをするには、1学期期間以上の継続が必要である。
いろいろなクラスに入っていました。時間が短いので子供たちに慣れるまでには至らなかったと思いました。学生さんおひとりなので、日本福祉大学のように複数で来ると悩みを相談しあったりして、もう少しのびのび活動していただけたのではと思いました。学校としては、個別に支援が必要な児童への対応などとても助かりました。
学校サポート活動を始める前の、事前指導で活動の目的と、参加するに際しての心構えを、学生にしっかり伝えてくださるようお願いします。
週1回ということで、継続したサポートをすることが難しかったと思う。
サポート活動という制度は、現場にとっては大変ありがたいです。大切なことは、学生の意欲、態度であると思います。受け入れ側も、様々な配慮をしながら有効活用を図っていきます。大学での事前・事後指導をよろしくお願いします。
職場や他の人たちと関わるうえで、一般的な常識、例えば電話連絡の仕方などを事前に指導していただけるとありがたい。教職を目指しているという意欲が伝わってこないのは残念である。どうかかわったらよいかわからないとは思いますが、指示待ちではなく積極的に取り組む姿を期待したい。
学生さんのことを考えると、週一回が適度であるが、もう少し(あと一回)行ってもらっても学校としてはありがたい。今後もよろしくお願いします。
週1回の活動では、生徒理解や教育活動理解を深めることは難しい。学生が何を学びたいのか、明確な目標があるとよいのだが、中途半端のまま今回終わってしまったように感じる。学校にとっても、学生にとってもプラスになる活動となるよう各学校の取り組み状況を参考に、今後も考えていきたい。
現場で起こる様々な出来事を体験できたり、1～6年の多様な児童に接する機会がある。また、年間を通しての仕事を知ることができ、学生にとっては有意義な経験を積むことができる。同時に本校にとっても、助かる場面が多くありがたい。
通年で行ったほうが、子供の様子の変化や、学校・先生の動きがわかってよいと思う。
本校に入ってもらっている学生は、本人の了解のもと、水曜日終日サポートに入ってもらった。子供や教職員、学校施設に慣れるに従い意欲の向上が見られたので継続できるとよいと思う。本人が教員としての適性を考えたり、教員になりたいという思いを強くしたりする点でも、よい活動であると思う。
本校では他大学の学生数名がボランティア活動をしています。その方たちは人手が入りそうな学年、学級にランダムに入ってもらっています。今回の取り組みは、単位の取得に関わるということで、低・中・高学年の特定の学級に書く4・5日ずつ入ってもらいました。今後、どのような取り扱いをするのが望ましいでしょうか。
学生さんは積極的に子どもに関わり、サポート活動に取り組んでくれていると感じる。ただ、週に1回3時間という活動では、たまに来て子供と一緒に遊ぶ程度の活動になっている。子供の支援まで至っていない。集中的に連続した活動であれば、教科指導にも関わり支援にもつなげることができると考えている。現時点では、授業参観をしていただいている活動にとどまっている。子供や学校の支援に役立つ活動をするには、短期集中的に学校教育活動に参加していただくほうがよい。しかし、子供の個人情報管理の面での心配もある。
担任も子供たちも来校を楽しみにしています。大助かりです、ありがとうございます。
学生の何をしたい(授業を見たい、授業と一緒にやりたい、子供とたくさん話したいなど)がより明確であるといい。
人手の足りない学校現場では、子供と直接かかわっていただける学生さんの存在にずいぶんと助けられました。通常学級における特別な支援が必要な児童にとって、年齢の近い学生は心のよりどころとなっていました。学生の負担、学校の受け入れ等から現状の形で継続していただきたいと思います。
将来教職を、目指す学生にとって、教育実習とは違って、学校や子ども理解を深める経験になったものと考えます。また、学校教育のサポートに関わっていただき、感謝申し上げます。
回数を重ねることで、さまざまな個性を持った子供たちとの関わりがしっくりくるようになっていきました。何より子供たちは、サポートに来てくれることを楽しみにしています。これからもお願いします。
サポート活動の意義を理解していて、自覚を持って活動していただけた。活動日が校内学芸会に行事の日もあったが、快く協力してくれた。学校側としては予算はないのですが、交通費や給食費の一部援助が出せるとよいと感じました。実際はどうなっているのでしょうか。
「サポート」という言葉のように多くの支援が受けられているが、本制度により、本校の教職員が成長し、仕事のレベル向上につながっていると感じる。

学生さんがとてもよく頑張ってくれました。学校としてもとても助かりました。ありがとうございました。
毎回、3年生のクラスについてもらい、個別に支援が必要なこの様子を見守ってもらうなど、いろいろと助けていただきました。とてもよくやってくれたと思います。担任の話では、できることならもっと来てほしいと申しておりました。
週一日は適度である。できれば、給食をまたいで長くいていただいてもかまいません。学級の中で、いろいろな子供がいることが実感できることは、とてもよいことだと思う。3学期も来てほしいくらいである。
子供たちも喜んでいました。
入ってくれた学級の担任も大変助かり喜んでおります。
学生が本活動について十分内容を把握できておらず、当方が尋ねてもわからないと返答されてしまうことがあったので、事前のオリエンテーション等で内容確認や目標意識を持って参加できるようにしてほしい。サポート活動時期が2学期(10月)からということで教育実習と重なり、同時期に20名ほど受け入れている本園としては負担を感じる。実施については時期を一考していただきたい。サポート活動終了後、担任等と本日の保育について気づいたり疑問に思ったりしたことなどについて話すことがなく、やりっぱなしな感じがした。教育活動への理解を深めようとする目的の一環としての活動であるならば、話し合いの時間を組み入れることは必要ではないか。※本園としては今日の目的を話してもらったり、本日の内容について記録を書いてもらうようにしたところ、少しずつ視点も明確なものに変わったようだ。
教職について1年以内に心の病で休職・退職する方が多くなっていることを考えると、こうした活動は価値があると思います。
誠実に取り組んでいただき、学校としてもありがたく思いました。
外国人生徒や授業についていけない生徒に対して行っている、取り出し授業をサポートしてもらいました。取り出し授業は、多くの教員の手を必要とするため、サポートしてもらうことで、より個別の対応が可能になり、助かっています。
慣れたところに終わってしまう感じですが、「学校サポート活動Ⅱ」に引き継がれていくということなので、学生さんが継続希望(同一校)してくださることを願っています。生徒とも顔なじみになり、学習支援や行事補助、環境整備など大変助かりました。人数の少ない特別支援学級の授業に参加してもらったり、文化祭で文化講座を開いてもらったり、大活躍でした。子供と接する場面をできるだけ設けたつもりですが、生徒のタイミングもあり、十分でなかった点は反省しています。学生にとっても、学校現場にとっても、有用な時間だったと思います。本事業が以降も継続されますことを期待しています。
来てくれる学生によります。現場の実態をよくお話しください。
とても熱心で礼儀正しい学生の態度に日々感心していました。
3名の学生を受け入れましたが、3名とも大変意欲的に取り組んでいました。子供たちとの関係も大変良好です。2学期(12月)で、サポート活動が終了してしまうのが本校としては大変残念です。できれば3学期(3月)まで継続していただけると、一層ありがたいです。
本校の子供たちや教職員にとって、貴重な刺激をいただきありがとうございました。サポート活動に対して、精一杯指導・支援に取り組んできましたが、不十分なところがあったことと申し訳ありません。学生の活動態度、礼儀、マナーなどがよく、素晴らしく感じました。
学生の個人差が大きく、意欲的に子供との関わりを楽しむ学生は、教職への意欲を高めることができたと思うが、そうでない学生は大変だと感じたのではないかなと思う。10月からは行事も多く、行事の内容の観察で終わることもあった。サポートのための準備をする余裕がなく、サポート内容を充実させられないこともあり、申し訳なかった。休み時間に、子供に誘われてたくさん遊んでくださった。とてもありがたかった。事前指導をしっかりとお願いしたい(しっかりとできる学生もいたので、個人差かもしれませんが。)学校へ連絡は、自分からする。いつまでに、何を聞いてくるのか。欠席連絡は、できれば前日までにする。急な病気の場合は、当日の朝8:20までにする。など。だらしない服装、態度はしない。子供たちに影響があることを自覚してほしい。職員室や教室でのあいさつの仕方。笑顔ではっきりと。担任が授業をしている時の動き。教室の後ろや横から子供の様子を見て、話を聞いていない子供を見つけたら横に行って見守る。サポートの仕方に困ったら、後から担当者に聞いて相談する。
学校側の予定と、学生の予定を合わせるのが大変だった。「毎週〇曜日、午前中」や「〇日～〇日まで、〇日間」など定期的だとよい。授業をさせるわけにもいかないので、個別支援や宿題点検、給食、清掃指導、放課に子供と遊ぶなどの活動であった。教師の負担はともかく、子供たちは学生が来るのを楽しみにしていた。
大変感謝しています、次回もぜひお願いしたいです。
大学側からの詳しい説明のないまま、強制的に受け入れさせるこのシステムに大変疑問を感じます。
週1回(水曜日 1限～3限)に、授業の中で個別支援をしていただきました。数学など、つまずきの多い教科を中心に、クラスに入ってもらいましたが、同じ曜日なのでクラスが偏ってしまいました。授業の関係もあり難しいと思うのですが、曜日や時間を弾力的に運用していただけるといろいろな生徒と接する機会も多くなると思います。行事、テストなどで9月下旬から3か月で13回の実施は学生さんも少し大変だったのではないかなと思います。週に1度でしたが、学校の雰囲気を感じ、将来に活かしていただけたら嬉しいです。
3人をサポート活動として引き受けました。本校は以前から学生ボランティアを採用させていただいています。今回は、大学からの依頼ということで、意欲はどうであろうかと思いましたが、3人ともとてもよく活動してくれました。本当に助かりました。教科のこともありますが、特別支援学級に入っていたら大変助かります。教職の原点を知るうえにも学生にはよかったと思います。ぜひ学生に続けてほしいです。
授業のサポートに入ってもらう場合、授業を担当している教員との時間がなかなかとれなことが課題です。

派遣された学生に対して、どのような活動をする場を設定すればよいのか、どこまで指導をしていけばよいのか、(たとえば、教育実習生に対してと同じように指導をしていってよいのか)等について、「サポート活動Ⅰ」についての趣旨を大学担当者の方から、直接説明をうかがったり、質問をしたりして理解を深める機会を持つことができるとよかったですと思います。
はじめ自信のなさそうだった学生さんが、回を重ね、子供たちと触れ合う毎に、目を輝かせ生き生きしていく様子をうれしく思いました。子供たちにとっても、よいふれあいになったと思います。
子供たちと活発にかかわる姿に好感が持てました。学生さんにとっても、この職業が自分に向いているか考える機会になったと思います。実際にこの活動を通して、頼られたりすることでやりがいを感じたり、また今は”手伝い”としての立場から、”職業”にしていくとなると違うということを目にするととてもいい活動だと思う。
この活動は学生さんが仕事をするということを学ぶ機会ととらえ、下記のような指導をしました。①病気で当日欠席する場合の連絡の仕方⇒本人は8:00に電話してきて、園長先生に伝えてくださいと伝言を依頼した。翌週出席したときに何の挨拶もしない。②忘れ物をした時の報告⇒毎回確認印を押す書類を忘れても平気な顔をしている。こちらが請求して初めて「忘れました」という態度でした。少し厳しかったと思いますが、勉強ということで指導を入れました。もしご意見がありましたら、お知らせください。12月に入って慣れてきたので、毎回クラスで絵本の読み聞かせをしてもらっています。毎週次に入るクラスの先生より絵本を預かり、10分そした機会を作っています。子供と接するということが、いろいろな形で経験できるようにこちらも工夫しています。
幼児とともに生活や遊びを過ごすことで、幼稚園の生活または教育内容に触れることができよい活動だと思います。職業を具体的に考えていくことに役立つことができるならば、とてもうれしいです。
子どもと関わるだけでなく、教材準備もしていただいたことで、幼稚園教諭の役割、仕事内容を少し実感していただけたと思います。また、1学年だけでなく、定期的に学年を変えて保育に入ってもらったことで、子供の発達の特徴、実際の姿を感じていただけたと思います。何より、学生さんが元気に前向きに取り組んでくださりうれしかったです。なかなか話をする時間が確保できなかったのが申し訳なかったです。
学生さんに固定のクラスではなく、毎回違うクラスに入ってもらい発達の違いを感じてもらいました。いつも腰が低く、丁寧なかかわりをし、心配りできる学生さんなので、子供たちも楽しみにして待ったり、保育だけでなく園の教材準備を行事準備を手伝ってもらったりし、大変助かりました。
実習からの継続でサポート活動が始まったので、活動しやすかったと思います。とても意欲的で、子供との関わりも教材準備などもしっかりとこなしていただけて園にとってもありがたかったです。ありがとうございました。
様々な経験が、学生の将来に向けての糧になると思います。現場としては可能な限り受け入れたいと考えています。
指示されたこともしっかり取り組み、意欲的でよかった。
今回受け入れた学生は、養護教諭養成課程の学生だったが、実際のサポートは養教に関する活動だけでなく、学校運営全般にわたるものであった。本校のような小規模校では、今後の受け入れもそういった活動内容になる。活動の内容に条件が付くようになると、受け入れは難しくなると思われる。
教職を目指す学生を育てるという視点では、とてもよい取り組みだと思います。後は、各学校の負担を軽減できればプラスに変えていく取り組み方法の工夫を今後も模索していきたいです。
一校に派遣される人数をよく考慮していただけたらと思います。本校は3名来ていただきました。本校の規模(生徒数715名)で上限の人数だと思います。これを超えると、学校の負担が変化すると思われます。来てくださった学生さんは3人とも、明るく熱心で爽やかな方々でした。本校生徒のためにも、非常にプラスになりました。本校としましては、今後この活動がより活性化されることを望んでいます。素晴らしい学生さんを派遣いただき本当にありがとうございます。
特別支援の授業、養護教諭の業務サポートなど、学校としても大変助かりました。今後も継続していただけるとありがたいです。
学生が実際に現場に入ること、保育者の関わり、環境、言葉がけなど見て学ぶことができると思います。実習でいきなり現場に入ること考えれば、事前に見て知ることができるので、よいと感じている。
今回初めての活動であったが、学生の参加態度がよく、子供たちにとっても、教員にとってもありがたかった。学生の期待に応えられたかどうかは気になることである。ほかの学校では、どんなサポート活動をしているのか、どんな活動が学生にとって有意義だったのか、など、参考資料としてまとめていただけたらと学校サポート活動Ⅱがより良いものになると思っています。
学生の意欲があまり感じられませんでした。積極的に子供と関わる姿勢の指導をお願いします。
教育実習と違って、週1回の活動であるため、受け入れ側(学校)の体制を整えることができず反省しています。その中でも学生さんは、意欲的に特別支援学級のサポートを試みえました。サポート活動の活動例、学生さんの感想などが今後紙面でいただけたらと参考になります。
この取り組みの主たる目的が、質問6、7であることから「学校サポート活動」というネーミングそのものがいかになものかと思う。学校が学生をサポートしているのではない。単位が認められているとはいえ、直接児童と関わらせることは責任が生じるため、学校としてもそれなりの準備が必要である。今回は、すべての学年(特別支援学級を含む)の主任の学級に入って活動したが、準備なしで行えるよう、ほとんど参観という形になった。実践的指導力の向上という観点からでは、物足りないと思われるが、教育実習前の学生が子供理解や教育活動理解を通して、学生自身が自分の適性を考えるという機会と考えるのであれば参観だけでも良いのではと考える。
活動日が毎週水曜日になっているため、授業参観ではいつも同じ教員の授業を見ることになってしまいました。なるべく多くの先生から刺激を受けたいので、活動日を柔軟に設定できないでしょうか?学校施設の環境整備に熱心に取り組んでくれました。ただ、教員免許がないため、授業をさせるわけにもいかず、「子供理解を深め、実践的指導力の向上を目指す」という点において十分支援できなかったと思います。
水曜日指定だといつも同じ授業(学級)になってしまう。学生の時間割の関係でやむをえないが、ほかの曜日にも入れるとよい。大変前向きに活動してくれました。
教育実習とは別に、長期にわたって子供たちとかかわる実習はとても有効である。さまざまな対応を考えたり、現任教員との継続した指導があったりして、学生にとっては充実した活動になるであろう。

学生の授業のこともあるが、一日(朝から帰りまで)の流れを体験することで、次の年の教育実習につながるのではないかな。
とても良い活動だと思います。教育実習の前にいろいろな活動を知ること、とてもよいと思います。できれば回数より、時間が増えたらと思います。ありがとうございました。
2年生の学生が参加するという点で、次年度からの教育実習に生かされる活動だと感じました。毎回、笑顔で子供たちと接してくださいました。子供たちと接するということが、見守る、補助するなどいろいろあることに気づいてもらえたらと思います。
今回本校に来てくださった学生さんは、いつも笑顔で子供と接してくださり、子供たちや先生方の評判も大変良い方でした。また専門の美術の才能を生かして、学芸会の背景画の下絵や看板の下描きをしてくださり、その出来栄は素晴らしいものでした。今回、このような活動を設けていただいたことに深く感謝します。また来年度、「学校サポート活動Ⅱ」にこの学生さんが来てくだされば、とてもうれしいです。ありがとうございました。
週1回、始業～終了時まで保健室のサポートや学校行事の手伝いをしてくれて、養護教諭は助かっています。
毎週来てもらっても、十分に対応ができず申し訳なかった。授業の見学、アシスタントとして入ってもらったが、まだ資格のない学生にどこまでやらせていいか迷った。
サポート活動中にけがをした場合や、通勤中に事故にあった場合はどうなってしまうのかということが心配でした。学生はとてもよく頑張っていました。
学生さんは特に別室登校の生徒と積極的にかかわってくれました。生徒も学生へ心を開き、よい人間関係を築くことができました。学生にとっても現場の実態を肌で感じる、よい機会になったと思います。ぜひ、学校サポート活動Ⅱにも参加し、生徒のために一緒に活動していけることを期待しています。
曜日が限定されたため、学生の専門教科のサポートに充てられなかった。
本校でサポート活動に取り組んだ古田さんは、まじめな態度で熱心に活動できたと思います。彼女が入った学級の先生も「とてもしっかりしていて、吸収が早く、機転も効いて大変助かっています」と言っていました。しかし「教育実習前の学生(学部2年生)」は、教師としての基本的なことが未習のため、サポートする立場としていかなものか。少なくとも3年生以上で、インターンのような現場実習ならサポーターとして機能させやすいのではないかと意見もありました。サポートに来る学生の素質によるところが大きいかもしれません。
実習もまだ経験していないので仕方のない面はあるが、あいさつや授業での支援で意欲をあまり感じない。事前指導で、活動に向けてある程度具体的な指導をしてもらえるとありがたいです。
大変意義のあることだと思う。今回の学生のやる気があったことも大きいですが、今後も受け入れていきたいと思う。
本校にサポート活動としてきてくれた学生さんは、大変前向きに取り組んでくれ、とても頼もしく思いました。子供に寄り添った動きをしてくれ、特別支援の必要な子供へのかかわりをたくさん学んでくれるように感じます。引き続き、ボランティア活動に来ていただけることを楽しみにしています。ありがとうございました。
本校で活動した学生は、大変意欲的に取り組んでいました。子供の個性の理解に努め、献身的に活動していました。本校としては、本事業に参加させていただけたことをうれしく思います。
児童の中には、全体指導において教師の発問や指示がスムーズに伝わらず、困ってしまう子がいます。そんな時に子供の近くでサポートしていただけると、大変助かります。どの程度子供に関わればよい点で多少難しいこともあります。ここで経験したことは必ず将来生かされると思っています。次年度に向けて、さらに活動の幅が広がればと思います。(望んでいます)
支援の必要な子供たちの対応をしていただき、いつも笑顔で意欲的に取り組んでいただいています。
今回学習意欲が高い学生だったので、子供の支援に役立ってくれたと感じる。2年生なので、この回数でもよいかもしれませんが、学生も子ども我々も、慣れたところに終わってしまった感じはある。
本校にとってこの「学校サポート活動Ⅰ」は大変ありがたいものでした。13回以上という基準がありましたが、これを一つのきっかけとして、今後も継続的なサポート活動に取り組んでいただけると、学校としてはとても助かると思います。※ただ学業優先ですので、それに支障のない程度でというのが条件となると思いますが。
以下のことについて大学のオリエンテーションをお願いしたいと思います。①挨拶を大きい声ですること②担当(授業者)との打ち合わせを簡単に行うこと。③子供と積極的にかかわること。
今回は理科担当の学生が、学校サポート活動をしてくれた。週1回程度では連続した支援にならず、いきあたりばつたりの支援になってしまい残念に感じることもあった。大学生にとっては、教育現場を知る良い機会になると思うので、サポート活動の頻度を増やすことができるとよいと思います。
養護教諭を目指す学生さんでしたので、保健室にて活動してもらいました。積極的に来室生徒に関わり、よい経験になったと思います。養護教諭がかかわっている保健の授業を参観したり、教材作りにも協力してもらいました。また、昼休みに歯科の個別指導を実施していましたので、時間を延長して参加してもらいました。ただ教育実習ではないので、どこまでのことをしてもらったらいいかという点について、こちらに多少戸惑いがありましたが、実習までに今回のような経験しておくことは大変有意義だと思います。

本報告書は、文部科学省の初等中等教育等振興事業委託費による委託事業として、愛知教育大学が実施した平成２８年度「総合的な教師力向上のため調査研究事業」の成果を取りまとめたものです。

したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続が必要です。

